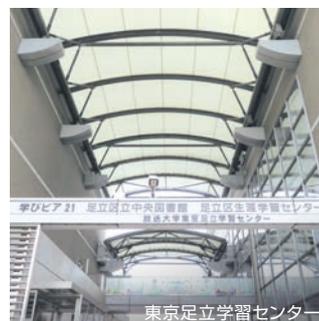


放送大学 アニュアルレビュー2016

The Open University of Japan Annual Review 2016



2016年度

学位記授与式

2017年3月25日(土)、2016年度学位記授与式を、東京・渋谷NHKホールにおいて挙行了。卒業証書・学位記授与の後、岡部洋一学長式辞、松野博一文部科学大臣、金子めぐみ総務大臣政務官からの祝辞に続き、学部卒業生総代久保田和臣さん(千葉学習センター)と大学院修了生総代國安真奈さん(東京渋谷学習センター)による謝辞があった。その後学長表彰が行われ、全専攻または全コースを卒業した19名の『放送大学名誉学生』、及び『特別賞』として、過去最高齢の卒業生の加藤榮さん(北海道学習センター)が表彰された。続いて、優れた教育活動を行った専任教員を、学生による授業評価や教員の推薦に基づき選考した『優秀授業賞』を石丸昌彦教授が、『放送大学教育功績賞』を田城孝雄教授が受賞した。2016年度の学部卒業生は5,453名、大学院修了生は324名であった。



CONTENTS

学長挨拶	2	国際交流の取り組み	19
オンライン授業	3	社会への貢献	21
充実した教育内容	5	学習センターの活動、この1年	23
放送大学における研究	14	データで見る放送大学の概要	30

【編集】

■放送大学アニュアルレビュー2016タスクグループ

生活と福祉/石丸 昌彦 教授	人間と文化/佐藤 良明 教授	担当副学長/池田 龍彦
心理と教育/大山 泰宏 教授	情 報/加藤 浩 教授	(オブザーバー)
社会と産業/齋藤 正章 准教授	自然と環境/石崎 克也 教授	■総務部広報課

「放送大学アニュアルレビュー2016」は、2016年4月～2017年3月の放送大学の活動を記録したものであり、本文に記載されている氏名・職名等は2016年度のものであります。

Annual Review 2016の刊行に寄せて

2017年12月
学 長 來 生 新

2016年度は岡部前学長の学長としての任期の最終年度であった。來生は学務担当理事・副学長として岡部前学長の補佐に当たっていたので、その立場から見た2016年度の本学の状況について記し、アニュアルレビュー2016の刊行に寄せる言葉に代える。

2015年度に運用2科目から開始した本学のオンライン授業は2016年度、順調にその数を増やし、前期8科目、後期3科目を新たに運用開始した結果、合計13科目を運用する状況となった。2015年度に運用を開始した幼保2科目は、本学でのオンライン科目制作の経験も浅く、双方向性を必要最小限にとどめる作り方をせざるを得なかったが、2016年度からはオンライン授業の双方向性の確保を前面に据えた、オンライン授業らしい授業を運用することができた。

2015年度に行ったカリキュラム改正との関係で、2016年度新規入学者は新カリキュラムを適用されるが、2015年度以前の入学者についても、希望者に新カリキュラムへの移行を認める特別措置を取っている。結果においては、予想したほど新カリキュラムへの移行手続きを取った学生は出てこな

かった。2015年度は、移行者による旧カリと新カリの卒業要件の違い等について、制度の十分な理解の欠如や説明の不足による若干の混乱が見られたが、2016年度にはそのような問題の発生もほとんどなくなり、状況は安定した。

面接授業は、通信制大学である放送大学において、学生が教員による講義を対面で直接受け、学生同士の交流も行える貴重な機会であると位置づけている。2016年度は全国50の学習センターにおいて、前後期合計3,203科目の面接授業を開講した。地域性に富んだ授業や、新カリキュラムの段階的教育の理念に沿ったナンバリング等の付加もあり、これまでと同様に多くの学生の受講がなされた。

放送大学の日本の高等教育に対する貢献として、教員免許更新講習を実施している。2016年度も講習受講者の数は着実に増加し、テレビ、インターネットを通じて、約11,600人の受講があった。

岡部前学長は2012年にアクションプランを発表されたが、最終年度である2016年度までに、アクションプランに示された計画はほぼ達成されたことを最後に付記しておく。

オンライン授業

社会の要請に対する即応

新たに設けられた資格に対応する科目の開設等、放送大学には社会的要請に即応する科目制作が求められている。放送授業は印刷教材執筆に1年以上、番組制作に1年を要することから、社会的要請に即応するために、すべての教材をインターネットで提供するオンライン授業を2015年度より開講した。

2015年度には、幼稚園教諭の普通免許状に係る所要資格の期限付き特例に対応するための2科目を開講、2016年度には1学期に8科目、2学期には特定行為に係る看護師のための研修制度に対応するため、「フィジカルアセスメント特論('16)」、「医療安全学特論('16)」、「臨床推論('16)」の3科目を加えて、計11科目を開講(計13科目を運用)、科目制作においては、2017年度の1学期に開講予定の7科目を制作、2学期開講予定の6科目の制作を進めている。



2016年度教養学部 新規開設科目

開講学期	コース	科目名	単位数	開設年数
1	生活と福祉	女性のキャリアデザイン入門('16)	1	6
1	生活と福祉	がんを知る('16)	2	4
1	情報	Javaプログラミングの基礎('16)	1	4
1	情報	感性工学入門('16)	1	4
1	情報	メディアと知的財産('16)	2	4
1	自然と環境	物理演習('16)	1	4

2016年度大学院修士課程 新規開設科目

開講学期	プログラム	科目名	単位数	開設年数
1	情報学	eラーニングの理論と実践('16)	2	4
1	自然環境科学	生物の種組成データの分析法('16)	2	4
2	生活環境科学	医療安全学特論('16)	1	6
2	生活環境科学	臨床推論('16)	1	6
2	生活環境科学	フィジカルアセスメント特論('16)	1	6

新しい学び方はじまります

社会的要請への即応ということに加えて、放送大学学生の中にインターネットユーザが増えてきたこともあり、教材の提供をインターネットで行うだけでなく、インターネットの双方向性を活かして、全ての学習活動をインターネット上で行う新しいタイプのオンライン授業が開講された。小テスト、レポート提出、電子掲示板によるディスカッション、プログラミングやデータ解析の実習等、これまでの放送授業では行われていない学習活動がインターネット上で行われる。2016年度から放送大学に新しい学びが加わった。



2016年度新規開設オンライン授業の特徴

全ての学習をオンラインで行います！

オンラインで講義を視聴、小テスト、ディスカッション、レポート等の課題を、科目ごとの設定期間に提出する形式で学びます。日々の着実な学習により、知識を身につけます。



オンライン授業 制作科目・コマ数の推移見込



※2020年度以降、閉講予定オンライン科目は開設延長を行なっていく予定

	2015			2016			2017			2018	2019
	1学期	2学期	(計)	1学期	2学期	(計)	1学期	2学期	(計)	(予定)	(予定)
制作科目数 (コマ数)	8 (92)	3 (24)	11 (116)	7 (98)	6 (62)	13 (160)	12 (166)	12 (166)	10 (136)	12 (未定)	
運用科目数 (コマ数)	2 (16)	—	2 (16)	10 (108)	3 (24)	13 (132)	20 (230)	6 (62)	26 (292)	38 (451)	48 (587)

2017/4/11 情報部オンライン教育課

充実した教育内容

テレビ・ラジオによる授業

放送授業

放送授業は、面接授業、オンライン授業と並び、放送大学の教育の中心に位置づけられるものである。2016年度第2学期（2016年10月～2017年3月）には、学部273科目、大学院64科目の合計337科目を開設しており、原則として4年間（毎年2学期ずつ、合計8学期間）放送している。したがって、全開設科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わる。

2016年度の新規開設科目は、学部50科目（テレビ

27科目、ラジオ23科目）、大学院8科目（テレビ2科目、ラジオ6科目）の合計58科目である。

2016年度全開講科目数

	第1学期		第2学期	
	テレビ科目	ラジオ科目	テレビ科目	ラジオ科目
学部	155	118	155	118
	273		273	
大学院	17	47	17	47
	64		64	
合計	172	165	172	165
	337		337	

2016年度新規開設科目一覧（学部）（TV=テレビ、R=ラジオ）

科目区分	科目名称	メディア
基盤科目	日本語リテラシー（'16）	TV
	情報学へのとびら（'16）	TV
基盤科目（外国語）	Walking with Writers（'16）	TV
	韓国語I（'16）	TV
	韓国語II（'16）	R
生活と福祉	導入科目	
	生活における地理空間情報の活用（'16）	TV
	社会福祉への招待（'16）	TV
	専門科目	
	看護学概説（'16）	R
	基礎看護学（'16）	TV
総合科目		
社会保険のしくみと改革課題（'16）	R	
社会福祉と法（'16）	R	
心理と教育	導入科目	
	発達科学の先人たち（'16）	R
	学校と法（'16）	R
	専門科目	
	カリキュラムと学習過程（'16）	R
乳幼児心理学（'16）	TV	
心理臨床とイメージ（'16）	TV	
心理臨床と身体の病（'16）	TV	
社会と産業	導入科目	
	社会学入門（'16）	TV
	政治学へのいざない（'16）	R
	現代会計（'16）	TV
	移動と定住の社会学（'16）	TV
	東アジアの政治社会と国際関係（'16）	R
	パレスチナ問題（'16）	TV
	専門科目	
	現代の行政と公共政策（'16）	R
	刑事法（'16）	R
初級簿記（'16）	R	
地域と都市の防災（'16）	TV	
総合科目		
権力の館を考える（'16）	TV	
海からみた産業と日本（'16）	R	
人間と文化	導入科目	
西洋哲学の起源（'16）	R	

科目区分	科目名称	メディア
人間と文化	導入科目	
	世界文学への招待（'16）	TV
	ラテン語の世界（'16）	R
	専門科目	
	経験論から言語哲学へ（'16）	R
西洋芸術の歴史と理論（'16）	TV	
上田秋成の文学（'16）	R	
博物館展示論（'16）	TV	
博物館教育論（'16）	R	
総合科目		
音を追究する（'16）	R	
情報	専門科目	
	アルゴリズムとプログラミング（'16）	R
	データの分析と知識発見（'16）	TV
	CGと画像合成の基礎（'16）	R
	映像コンテンツの制作技術（'16）	TV
ユーザ調査法（'16）	TV	
身近なネットワークサービス（'16）	TV	
自然と環境	導入科目	
	生物環境の科学（'16）	TV
	初歩からの物理（'16）	TV
	ダイナミックな地球（'16）	TV
	専門科目	
入門微積分（'16）	TV	
エントロピーからはじめる熱力学（'16）	R	

2016年度新規開設科目一覧（大学院）

プログラム名	科目名称	メディア
生活健康科学	精神医学特論（'16）	R
人間発達科学	教育行政と学校経営（'16）	R
	道德教育の理念と実践（'16）	R
人文学	道を極める—日本人の心の歴史（'16）	R
	人類文化の現在：人類学研究（'16）	TV
情報学	データベースと情報管理（'16）	R
自然環境科学	地球史を読み解く（'16）	TV
	計算論（'16）	R

インターネットラジオ（radiko.jp）

2012年度から、ラジオ科目をパソコンやスマートフォンなどで放送と同時に聴取できる「radiko」

（ラジコ）も利用可能となっている。

特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義を行っている。

2016年度は新規開設13講義(テレビ6講義、ラジオ7

講義10番組)を含む、全93講義(テレビ44講義、ラジオ48講義59番組)の特別講義を放送した。

2016年度新規開設特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
森鷗外と明治の青春―「青年」を中心に―	放送大学教授 島内 裕子 森鷗外記念会顧問・跡見学園理事長 山崎 一穎	TV
地域包括ケアの理論と実践	慶應義塾大学名誉教授 田中 滋 東京大学特任教授 辻 哲夫、放送大学教授 田城 孝雄	TV
エンジニアが映像で挑む! ～トップアスリート強化～	国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部 専門研究員 三浦 智和	TV
イギリスの科学教育に学ぶ	放送大学渋谷学習センター客員教授・東京工業大学名誉教授 市村 禎二郎 放送大学渋谷学習センター所長 酒井 善則	TV
正確な時計は基礎科学を開く窓	国立研究開発法人情報通信研究機構 理事 細川 瑞彦 国立研究開発法人情報通信研究機構 時空標準研究室長 花土 ゆう子	TV
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ～富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクト～	富山大学大学院准教授 中林 美奈子、放送大学教授 田城 孝雄	TV
オリンピックボランティアの世界 ①誕生と貢献の歴史 ②東京で夢をかなえる	早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員 市居 愛	R
編集者漱石①編集者子規 ②朝日新聞の時代	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫、放送大学教授 草光 俊雄	R
終活学 満足して人生を終える	東京医科大学客員教授 長尾 和宏	R
江戸農書からみる現代農業と日本社会	大阪経済大学学長 徳永 光俊	R
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	放送大学教授 黒須 正明	R
食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	内閣府食品安全委員会委員長 佐藤 洋	R
脳と心―分子生物学者がみた精神医学― ①部品の科学と全体としての脳②家族の旅から回復を体験すること	東京都医学総合研究所 糸川 昌成	R

2016年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
森鷗外と明治の青春―「青年」を中心に―	放送大学教授 島内 裕子 森鷗外記念会顧問・跡見学園理事長 山崎 一穎	TV
古代アンデス文明と日本人	放送大学教授 稲村 哲也、東京大学名誉教授 大貫 良夫	TV
薩摩硫黄島の熊野三山と「平家物語」	國學院大学教授 野中 哲照	TV
アクティブシニアのICT活用生活	同志社大学教授 関根 千佳、放送大学教授 広瀬 洋子	TV
公共人類学 ―人類学の社会貢献―	東京大学名誉教授・帝京平成大学教授 山下 晋司	TV
伝承芸能の魅力～薩摩川内市の東郷文弥節人形浄瑠璃～	鹿児島大学名誉教授 中山 右尚、國學院大学教授 野中 哲照	TV
外邦図―軍事情報から近代資料へ―	大阪大学名誉教授 小林 茂	TV
画文共鳴～文学と美術の交流～	甲南大学文学部教授 木股 知史	TV
謎の石塔「薩摩塔」	慶應義塾大学教授 中島 圭一	TV
ネアンデルタール人はなぜ滅びたのか～多彩な知が真相に迫る～	高知工科大学名誉教授 赤澤 威	TV
和紙彫塑の美を究める	和紙彫塑家 内海 清美	TV
近代小説の誕生―バルザック「人間喜劇」をめぐる	大手前大学長 柏木 隆雄	TV
広がる工芸の世界	高知大学名誉教授 石川 充宏	TV
地域包括ケアの理論と実践	慶應義塾大学名誉教授 田中 滋、東京大学特任教授 辻 哲夫 放送大学教授 田城 孝雄	TV
セクシュアル・マイノリティとしての幸せな暮らし～本当は豊かな性のあり方～	東京大学大学院講師 石丸 徑一郎	TV
女性アスリートの育成と支援、その課題	順天堂大学大学院教授 小笠原 悦子	TV
自然災害では死なせない～ある災害社会工学者の格闘～	群馬大学大学院教授 片田 敏孝	TV
東日本大震災復興支援と地域福祉	日本福祉大学教授 平野 隆之、日本福祉大学教授 原田 正樹	TV
未来への教訓～検証・福島第一原発事故～	社会技術システム安全研究所長 田辺 文也	TV
災害に安全なまちとすまい	東京工業大学名誉教授 和田 章	TV
「紛争予防学」とは何か	東京外国語大学大学院教授 伊勢崎 賢治	TV
フォトジャーナリズムとは何か	フォトジャーナリスト・DAYS JAPAN編集長 広河 隆一	TV
菓の文化:欠かせない日本の意匠	千葉大学名誉教授 宮崎 清	TV
アディクション～その現実と回復への支援～	横浜市立大学大学院教授 松下 年子	TV
薬物治療に貢献する～病院薬剤師の役割～	元・日本病院薬剤師会会長(群馬大学医学部名誉教授) 堀内 龍也	TV
生涯現役の社会へ～高齢者雇用の今～	法政大学教授 上林 千恵子	TV
国際ボランティア学への招待	放送大学教授 山田 恒夫、学習院大学名誉教授 川嶋 辰彦 京都女子大学教授 内海 成治、名桜大学教授 小川 寿美子	TV
日本漫画と文化多様性～世界に拡散する絵物語コミュニケーション～	東京工業大学大学院教授 出口 弘	TV
エンジニアが映像で挑む! ～トップアスリート強化～	国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部 専門研究員 三浦 智和	TV

2016年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
イギリスの科学教育に学ぶ	放送大学渋谷学習センター客員教授・東京工業大学名誉教授 市村 禎二郎 放送大学渋谷学習センター所長 酒井 善則	TV
正確な時計は基礎科学を開く窓	国立研究開発法人情報通信研究機構 理事 細川 瑞彦 国立研究開発法人情報通信研究機構 時空標準研究室長 花土 ゆう子	TV
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ～富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクト～	富山大学大学院准教授 中林 美奈子、放送大学教授 田城 孝雄	TV
海底に探るエネルギー資源～日本海・メタンハイドレート～	明治大学研究・知財戦略機構・ガスハイドレート研究所 代表 松本 良	TV
ヒマラヤ高所に生きる人々の生活と健康―高所適応とグローバル化による攪乱―	放送大学教授 稲村 哲也、京都大学連携准教授 奥宮 清人	TV
脳波で動く 1/f ゆらぎ癒しロボット	茨城大学名誉教授 白石 昌武	TV
遷移金属触媒の魔法の力～サステナブルな21世紀への鍵～	パデュエー大学特別教授 根岸 英一	TV
ウナギ 大回遊の謎を追う	日本大学教授 塚本 勝巳	TV
自分ができる細胞健康科学～細胞・身体連携力学応答機構とスローエクササイズ効果～	東京大学名誉教授 跡見 順子	TV
細胞の声を聞く	京都大学大学院教授 高橋 淑子	TV
江戸に咲いた和算の夢～数学者・関孝和物語～	放送大学名誉教授 熊原 啓作、四日市大学教授 小川 東 四日市大学関孝和研究所所長 上野 健爾	TV
渡り鳥の旅を追う	東京大学名誉教授 樋口 広芳	TV
生命起源の謎に迫るGADV仮説	奈良女子大学名誉教授 池原 健二	TV
ミャンマー・インレー湖周辺の水環境	お茶の水女子大学名誉教授 富永 典子	TV
日本海の生い立ちを探る～山陰海岸ジオパーク～	鳥取大学名誉教授 西田 良平、大阪市立大学理学部教授 三田村 宗樹	TV
オリンピックボランティアの世界 ①誕生と貢献の歴史 ②東京で夢をかかなえる	早稲田大学スポーツビジネス研究所招聘研究員 市居 愛	R
編集者漱石 ①編集者子規 ②朝日新聞の時代	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫、放送大学教授 草光 俊雄	R
人間発達と初期環境	お茶の水女子大学名誉教授 藤永 保	R
私、あきらめない!! ～車いす女優・萩生田千津子の原点～	女優 萩生田 千津子	R
私、舞台を降りない!! ～車いす女優・萩生田千津子の世界～	女優 萩生田 千津子	R
メディアと与謝野晶子	歌人 松村 由利子、放送大学教授 廣瀬 洋子	R
心に響く音文化(おんぶんか) 第1回「民族音楽学への招待」 第2回「中東の音文化」	兵庫教育大学名誉教授 水野 信男	R
幻の私小説家・藤澤清造	作家 西村 賢太	R
つなぐ言葉としての方言 ―3.11被災地から―	東北大学大学院教授 小林 隆	R
音楽表現と情報環境	音楽家 タケカワ ユキヒデ	R
ことばの礼儀作法 第1回「日常会話の点検(前編)」 第2回「日常会話の点検(後編)」	元NHKエグゼクティブアナウンサー 梅津 正樹	R
口語で読み解く「出雲神話」 第1回「スサノヲの世界」 第2回「オホクニヌシの世界」	立正大学教授(千葉大学名誉教授) 三浦 佑之	R
御国言葉で「よきたより」～心に響く聖書の和訳を求めて～	医師 山浦 玄嗣	R
野口英世を支えた4人の女性たち～猪苗代からアフリカまで～(1)(2)	ノンフィクション作家(2012.3で早稲田大学退任) 山本 厚子	R
吊うことの意味	宗教学者 島田 裕巳	R
万葉びとの生活と心情	奈良大学教授 上野 誠	R
森 鷗外原風景～石見人・森 林太郎～ ①津和野時代 ②心の軌跡	花園大学名誉教授 山崎 國紀	R
シャンソンの女王～エディット・ピアフ物語～	作曲家・元慶應義塾大学非常勤講師 吉田 進	R
朗読で追求する美しい日本語	女優 幸田 弘子	R
一葉と龍之介―文学と統計学の狭間から	一橋大学名誉教授 新井 皓士	R
終活学 満足して人生を終える	東京医科大学客員教授 長尾 和宏	R
江戸農書からみる現代農業と日本社会	大阪経済大学学長 徳永 光俊	R
障害者差別解消法と差別を解消するための研修について	放送大学教授 廣瀬 洋子、国際協力機構国際協力専門員 久野 研二 日本障害者リハビリテーション協会研修課長 奥平 真砂子	R
オーラル・ヒストリーの課題と展望	放送大学客員教授 御厨 貴 東京大学先端科学技術研究センター教授 牧原 出	R
「まぜこぜ社会」が世界を変える	女優、一般社団法人Get in touch 理事長 東 ちづる 放送大学教授 井上 洋士	R
患者とともに生きる医療	東京大学名誉教授(三井記念病院院長) 高本 眞一	R
幕末の日本人が見たアメリカ～万延元年遣米使節の異文化理解～	大正大学名誉教授 鈴木 健次	R
東日本大震災からの復興に携わって―復興構想会議を中心に―	神戸大学名誉教授 五百旗頭 真	R
記憶を記録に/津波で失われた写真の回収、修復、保存、返還作業	放送大学教授 高橋 和夫	R
日本型近代家族	武蔵大学教授 千田 有紀	R
科学技術倫理と著作権	放送大学教授 児玉 晴男	R
原子力情報の公開と情報公開法	獨協大学法科大学院特任教授 三宅 弘	R
阪神・淡路大震災と東日本大震災	大阪大学名誉教授 林 敏彦	R
アメリカの里親制度	活水女子大学准教授 園井 ゆり	R
原発事故と農業～それでも農民は種を播いた	茨城大学名誉教授 中島 紀一	R
アマルティア・センの現代インド論	元アジア経済研究所地域研究部長 佐藤 宏	R
インドネシアの経済発展とエネルギー・環境政策	和光大学教授 バンバン・ルディアント	R
ワイン産業と地域ブランド	愛知県立大学教授 竹中 克行	R

2016年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	放送大学教授 黒須 正明	R
食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	内閣府食品安全委員会委員長 佐藤 洋	R
脳と心—分子生物学者がみた精神医学— ①部品の科学と全体としての脳 ②家族の旅から回復を体験すること	東京都医学総合研究所 糸川 昌成	R
ネアンデルタール人はなぜ滅びたのか～交替劇プロジェクトの研究～	高知工科大学名誉教授 赤澤 威	R
物理学における対称性とその破れ	高エネルギー物理学研究機構特別栄誉教授 小林 誠	R
岡潔の生涯と学問	九州大学教授 高瀬 正仁	R
放射線はどうして怖いのか、怖くないのか	日本医科大学教授 太田 成男、放送大学名誉教授 濱田 嘉昭	R
モーツァルトがあなたを癒す～謎解き! 音楽療法～	埼玉医科大学教授 和合 治久	R
インフルエンザ1 感染症は不意にあらわれる～新型インフルエンザから学んだこと～ インフルエンザ2 インフルエンザの流行は糖鎖でできる～鳥からヒトへ～	(第1回)理研 新興・再興感染症研究ネットワーク 推進センターマネージャー 加藤 茂孝 (第2回)中部大学教授 鈴木 康夫	R
漢詩をうたう	和光大学講師 荘 魯迅	R
50代からの英語 50代からの中国語	(英語)清泉女子大学教授 大杉 正明 (中国語)東京工科大学教授 陳 淑梅	R

インターネット配信

2007年度から、在学生用ホームページ(キャンパス・ネットワーク・ホームページ)で、放送授業のインターネット配信(ストリーミング配信)を開始した。配信科目数は年々拡充しており、ラジオ科目ではすべての科目をインターネット配信している。2016年度の配信科目数は、テレビ169科目、ラジオ165科目、特別講義101講義である。

2016年度のインターネット配信科目数

	テレビ	ラジオ
学 部	154	118
大 学 院	15	47
特別講義	42	59
合 計	211	224

寄附科目

放送大学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2016年度には、4科目の寄附科目を放送した。

2016年度開設寄附科目一覧

科目名	寄附団体名	メディア
著作権法概論('06)('10)('14)	日本音楽著作権協会	R
組織運営と内部監査('09)('13)	日本内部監査協会	TV
社会と銀行('10)('14)	全国銀行協会	TV
薬物治療に貢献する ～病院薬剤師の役割～(特別講義)	日本病院薬剤師会	TV

対面による授業 面接授業(スクーリング)

面接授業は、放送授業とともに放送大学の教育の中心に位置づけられるものであり、全国50カ所の学習センターと7カ所のサテライトスペースで開講している。2016年度は、3,203科目(1学期1,578科目、2学期1,625科目)を開講している。

放送大学の専任教員や地元の大学教員等による対面での授業であり、教員と学生の交流だけでなく、学生同士の出会い、共に学ぶ楽しさを共有できる機会ともなっている。

授業内容は、教養学部という特性に応じた幅広い学問分野に富んでおり、授業形態も通常の講義形式だけでなく、実験やフィールドワークなど多彩な形態で開講している。

また、単独の学習センターのみの開講だけでなく、各地域の特色を生かしたテーマの下でブロック間の学習センターが連携し、リレー形式でも開講している。

2014年度から、入学生も出願手続きの際、一定の条件を満たせば、入学学期当初から面接授業を登録申請できるよう制度を改正した。

さらに、学生ニーズの高い認定心理士資格取得に必要な「心理学実験科目」を、東京文京学習センターにおいて連日授業を開講する特別開講を開始している。

このように意欲ある学生に、できるだけ多くの学習機会を提供できるよう制度の見直し、学生サービスの向上を常に図っている。



愛媛学習センター「食と生活習慣」



大阪学習センター「上方講談と大坂の陣」

オープンコースウェア

オープンコースウェア(OCW)とは「大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動」のことである。

学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された放送大学は、オープンコー

スウェアの理念に賛同し、2009年日本オープンコースウェアコンソーシアムに正会員として参加した。放送大学の放送授業は全部で約300科目あり、2014年度からはほとんどの授業科目について、1番組または全15番組をインターネットで無償公開している。

2016年度オープンコースウェア科目(全15回分を公開)一覧

テレビ授業科目		ラジオ授業科目	
科目名	講師	科目名	講師
Waking with Writers('16)	井口 篤 ステュウット・ヴァーナム・アットキン	生活経済学('16)	重川 純子
社会福祉への招待('16)	岩田 正美	看護学概説('16)	井出 訓 / 井上 洋士
世界文学への招待('16)	宮下 志朗 / 小野 正嗣	社会保険のしくみと改革課題('16)	田中 耕太郎
データの分析と知識発見('16)	秋光 淳生	音を追究する('16)	大橋 理枝 / 佐藤 仁美
ユーザ調査法('16)	黒須 正明 / 高橋 秀明	政治学へのいざない('16)	御厨 貴 / 山岡 龍一
ダイナミックな地球('16)	大森 聡一 / 鳥海 光弘	アルゴリズムとプログラミング('16)	鈴木 一史
入門微積分('16)	石崎 克也	CGと画像合成の基礎('16)	浅井 紀久夫
ヨーロッパの歴史I('15)	草光 俊雄 / 甚野 尚志	エントロピーからはじめる熱力学('16)	安池 智一 / 秋山 良
量子と統計の物理('15)	米谷 民明 / 岸根 順一郎	精神医学特論('16)	石丸 昌彦 / 広瀬 宏之
Webのしくみと応用('15)	森本 容介	道を極めるー日本人の心の歴史('16)	魚住 孝至
環境の可視化('15)	梅干野 晁 / 中村 恭志	データベースと情報管理('16)	柳沼 良知 / 三輪 眞木子
食健康科学('15)	小城 勝相 / 清水 誠	計算論('16)	隈部 正博
場と時間空間の物理('14)	米谷 民明 / 岸根 順一郎	教育学入門('15)	岡崎 友典 / 永井 聖二
コンピュータのしくみ('14)	岡部 洋一	高齢期の生活と福祉('15)	山田 知子
人的資源管理('14)	原田 順子 / 奥林 康司	日本の教育改革('15)	小川 正人 / 岩永 雅也
計算事始め('13)	川合 慧	韓国朝鮮の歴史('15)	吉田 光男
地域社会の教育的再編('12)	岡崎 友典 / 夏秋 英房	自然言語処理('15)	黒橋 禎夫
市民生活と裁判('12)	來生 新 / 川島 清嘉	健康科学('15)	田城 孝雄 / 星 旦二
デジタル情報の処理と認識('12)	柳沼 良知 / 鈴木 一史	数理学('15)	石崎 克也
初歩からの数学('12)	隈部 正博	コンピューティング('15)	川合 慧 / 萩谷 昌己
		哲学への誘い('14)	佐藤 康邦
		リスク社会のライフデザイン('14)	宮本 みち子 / 岩上 真珠
		感染症と生体防御('14)	田城 孝雄 / 北村 聖
		社会心理学('14)	森 津太子
		福祉政策の課題('14)	大曾根 寛

2016年度オープンコースウェア科目(特別講義)一覧

テレビ特別講義		ラジオ特別講義	
科目名	講師	科目名	講師
森鷗外と明治の青春―「青年」を中心に―	島内 裕子／山崎 一類	オリンピックボランティアの世界①誕生と貢献の歴史	市居 愛
エンジニアが映像で挑む!～トッパスリート強化～	三浦 智和	オリンピックボランティアの世界②東京で夢をかなえる	市居 愛
イギリスの科学教育に学ぶ	市村 禎二郎／酒井 善則	編集者漱石①編集者子規	長谷川 郁夫／草光 俊雄
正確な時計は基礎科学を開く窓	細川 瑞彦／花土 ゆう子	編集者漱石②朝日新聞の時代	長谷川 郁夫／草光 俊雄
ゆるくて楽しい歩行圏コミュニティ ～富山市・高齢社会デザイン開発プロジェクト～	中林 美奈子／田城 孝雄	ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	黒須 正明
		食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	佐藤 洋
		脳と心―分子生物学者がみた精神医学―①部品の科学と全体としての脳	糸川 昌成
		脳と心―分子生物学者がみた精神医学―②家族の旅から回復を体験すること	糸川 昌成
		終活学 満足して人生を終える	長尾 和宏
		江戸農書からみる 現代農業と日本社会	徳永 光俊

誰もが心地よく学べるために

特別な支援が必要な学生への学習支援

放送大学では、いかなる学生に対しても学習機会が阻害され不利益が生じることのないよう、さまざまな学習支援体制の整備を進めている。例えば、聴覚障がいがある学生への支援としてテレビ授業科目における字幕番組を提供している。2016年度第2学期に字幕を付して放送を行った授業は89科目あり、これは全テレビ科目の約50%にあたる。特別講義についても44科目全てに字幕を付して放送をおこなった。また、インターネット配信では、2016年度第2学期に、89テレビ科目・

42テレビ特別講義で字幕付き配信、4ラジオ科目・1ラジオ特別講義で字幕付加実験をおこなった。

さらに、単位認定試験時には、ハンディキャップの程度に応じて、別室受験、試験時間の延長等の特別措置を講じている。たとえば、2016年度第2学期単位認定試験における音声出題の対象科目数は131科目で、対象となった学生数は延べ178名であった。また、点字での出題対象科目数は80科目であり、対象となった学生数は延べ115名であった。

科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)の拡充

放送大学では、2006年度から本学独自の制度として、科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)を導入した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修した学生に対して、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行ったことを証明するものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明制度」が規定されたことを機に、2008年度からは、この「履修証明制度」に対応するものとして再

スタートしている。

当初10プランで始まった本制度は、その後、年々新しいプランを開設し、2016年度には新たに「日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン」を加えた計28プランとなっている。

2017年3月31日までの累計認証取得件数は21,918件にのぼっており、学生の修学目標の一つとして定着していることがわかる。

2016年度認証プランと認証状取得者数(2017年3月31日現在)

認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数	認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
1 健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	2,367	16 宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	574
2 福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	2,171	17 生命科学プラン	生命人間科学	773
3 社会生活企画プラン	社会生活プランナー	1,139	18 環境科学プラン	環境科学の基礎	667
4 食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	691	19 社会数学プラン	数学と社会	333
5 心理学基礎プラン	心理学基礎	2,888	20 エネルギー・環境研究プラン	エネルギー・環境政策論	275
6 臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	1,347	21 芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	1,078
7 社会探究プラン	現代社会の探究	526	22 歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	1,278
8 市民活動支援プラン	市民政策論	544	23 自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	473
9 実践経営学プラン	経営の理解	527	24 工学基礎プラン	工学基礎	280
10 ものづくりMOTプラン	ものづくりとMOT(技術経営)を学ぶ	300	25 人にやさしいメディアデザインプラン	人にやさしいメディアのデザインプラン	75
11 次世代育成支援プラン	次世代育成支援	1,150	26 計算機科学基礎プラン	計算機科学の基礎	116
12 コミュニティ学習支援プラン	地域生涯学習支援	303	27 地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材	210
13 異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	937	28 日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成～2020年ボランティア・ガイド～	—
14 アジア研究プラン	アジア研究	387			
15 日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会	509	合計		21,918

他機関への教育支援

単位互換の取り組み

本学は、全国の教育機関と積極的に単位互換協定を進めている。2016年度には、新たに6校の大学と単位互換協定を締結し、合計387校となった。

2016年度に締結した単位互換協定締結校

大学名	大学名
茨城キリスト教大学	釧路短期大学
東京電機大学	松山短期大学
東北文教大学	新潟工業短期大学

専修学校との連携協力

本学では、専修学校専門課程と連携協力を実施し、専修学校専門課程に在籍しながら学士(教養)の学位を取得できる制度を設けている。2016年度も新たに7校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、合計で37校となった。

2016年度に締結した連携協力校(専修学校)

学校名	学校名
別府大学附属看護専門学校	日産京都自動車大学校
日産栃木自動車大学校	日産愛媛自動車大学校
日産横浜自動車大学校	茨城県結城看護専門学校
日産愛知自動車大学校	

キャリアアップを支援する

資格取得

放送大学で修得した単位は、以下の資格取得等のために活用することができる。

- 看護師国家試験受験資格 ● 教員免許状の上位・他教科・隣接校種の免許状
- 学校図書館司書教諭資格 ● 特別支援学校教諭二種免許状(知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域)
- 養護教諭免許状 ● 栄養教諭免許状 ● 学芸員資格 ● 社会教育主事任用資格 ● 社会福祉主事任用資格
- 介護教員講習会の対応科目 ● 看護師の特定行為研修制度対応科目

学芸員資格に関しては、博物館法施行規則改正により、2012年度から9科目19単位の修得が必要となったが、放送大学では、博物館実習を除く8科目を開講して対応することとなった。

博物館実習についても、2012年度から岐阜女子大学、2016年度から東京情報大学との連携による博物館実習

を開講した。また、2017年度からの放送大学生受け入れに向け四国大学、九州産業大学との間で協定を締結した。これは、一定の要件を満たした放送大学生がそれぞれの大学で博物館実習を受講できるものであり、2016年度には全国から25名の学生が受講した。

また、2009年度からの教員免許更新講習制の実施に伴い、放送大学でも教員免許更新講習を実施している。本学の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びインターネットを利用し、全国どこでも講習の受講が可能となっている。この講習は、毎年2回(夏期及び冬期)実施することとしており、2016年度の講習では、約11,600人の受講者が、延べ約52,000科目を受講した。

学生の研究成果の公開

放送大学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度より、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパスネットワークホームページで開始した。2016年度は、2015年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書(全文)」29点を公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集

「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を2005年3月より刊行している。在学生や今後の入学者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員の自己点検・自己評価、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2017年3月刊行の第13号には2015年度修了生全355名の研究成果の中から、論文12点、研究ノート42点が掲載されている。



より質の高い教育を目指して

じっくり3年かけて授業科目を作成

本学では毎年、何十もの放送授業を新たに開設している。1つの放送授業を開設したら、4年から6年程度で内容を見直しをするからである。閉講して別の放送授業を新設する場合もあれば、既存の内容に新しい情報を加えて改訂する場合もある。そのため、放送授業を担当する講師は、次はどのような内容にするか、どの講師と一緒に教材をつくるかを考えていかなければならない。

下の図のように、授業開始（開講）の3年ほど前から構想を練りはじめ、「このような科目をつくりたい」と大学側に提案する。科目開設が決定すると、「主任講師会議」を開いてスケジュールの確認、編集者等との顔合わせをする。

印刷教材は、授業番組の回数に合わせて15章で構成されており、担当する講師が分担して執筆する。主な

内容や分担を決め、締切などのスケジュールを確認したら、原稿執筆に取りかかる。原稿の締切は、授業開始のおよそ1年前。



主任講師会議

開講の1年前から、授業番組づくりに入る。スタッフの多くは、教育番組等を制作してきたベテラン。プロデューサーやディレクターと打ち合わせをし、どのような番組構成にするかを決めていく。そして、必要な素材を集め、台本をもとにスタジオでの収録に臨む。

このように約3年間をかけ1つの授業科目は作成される。

授業科目づくりの主な流れ



FD(Faculty Development)の取り組み

FD(Faculty Development)の一環として、2017年2月15日(水)にFD委員会主催で講演会を開催した。今年度は、大学の教職員のための情報セキュリティをテーマとして 本学教職員2名による講演を行った。本学情報学プログラム教授等による情報セキュリティと情報倫理に関する講演に加え、参加者との質疑応答を行い、活発な議論が行われた。



ICTを活用した教育の支援

遠隔会議サービスによる修士課程ゼミ

放送大学の授業には放送授業と面接授業が存在するが、一方で、卒業研究や修士課程・博士後期課程での研究指導(論文執筆指導)も行われている。

このような遠隔の研究指導をうける学生のために、ウェブ会議サービスを整備している。このサービスは、ASP(アプリケーション・サービス・プロバイダ)方式で(株)ブイキューブと契約をしている。これは、学内にテレビ会議システム用のサーバを保有・運営するのではなく、ウェブ会議用のサーバを利用する権利を契約によって取得する方式である。放送大学のように、利用が週末に集中する環境では、専門的な知識や保守を学内で行う必要がないASP方式のメリットが高い。

実際には、遠隔による研究指導やゼミを行うことが決まり次第、専任教員が実施日と時間を定めて利用申請を行う。その後、事業者のサーバを利用するために必要なURLと「ゼミID」が発行される。ゼミの参加者はパソコンのウェブブラウザで指定されたURLを開いて

「ゼミID」を入力すると、パソコン内蔵(あるいは外付)のビデオカメラとマイクロフォンからの映像と音声、ウェブ会議サービスの中に投影される。参加者のパソコンに専用のソフトウェアをインストールしなくても、気軽に参加できるというメリットがある。また、タブレットで使う場合には、このウェブ会議サービス専用のアプリがあり、パソコンよりも簡単な手順で利用可能となっている。



ウェブ会議サービスの画面

ソーシャル・ネットワーキング・サービスを利用した交流

放送授業での学習は、自宅や学習センターで、ひとりで学ぶことが多く、従来は、ともに学ぶ「学友」は、学習センターで出会うしかない状態であった。

だが、近年、インターネットの利用者が増大し、また、インターネットに接続して利用できる機器が、従来のパソコンのみならず、タブレットや、スマートフォンなどにも広がった。これらの機器は、簡単に取り扱うことができ、また、導入費用も下がっている。そのため、多くの人が、インターネットを利用した交流によって、意見交換をしたり、精神的に癒されたりすることが可能になった。特に、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を利用した交流が増加しつつある。

放送大学は、無料オンライン講座を提供する「日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)」に参加している。そこで、授業映像を提供するために、世界最大のSNSとして知られるフェイスブックに「放送大学JMOOCページ」を設けている。

また、放送大学のコース・学習センターの一部が、ツ

ィッターやフェイスブックにページを開設し、情報公開を行っている。さらに、岡部学長、および、一部の教員がツイッターを利用して放送大学に興味を持つ一般の人や、在学生相互の交流に加わっている。



情報コース・情報学プログラムのフェイスブック

岡部学長のツイッター

情報コース「映像コンテンツの制作技術(16)」のツイッター

放送大学における研究

特別研究と外部資金による研究

放送大学では、専任教員が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。研究の支援・推進のために、特に放送大学の発展に寄与する教育・研究プロジェクトや学術上あるいは大学運営に貢献する研究に対して特別研究費の制度を設け、プロジェクト支援として、また、教員個人の研究助成と

して資金面での支援をしている。さらに、放送大学教育振興会など他からの助成基金も積極的に得て研究をすすめている。2016年度に特別研究として、また、放送大学教育振興会・日本学術振興会等の助成で実施した研究テーマは以下のとおりである。

2016年度学長裁量経費(プロジェクト支援)決定者一覧

所 属	職 名	氏 名	プロジェクト名
人間と文化	教 授	稲村 哲也	展覧会「古代アンデス文明と日本人」開催(福島、神奈川)

2016年度学長裁量経費(研究助成)決定者一覧

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
生活と福祉	教 授	井出 訓	認知症と生きる人々に付されたスティグマの現状と変遷～医療福祉従事者のスティグマに関する構造比較から～
	教 授	井上 洋士	HIV陽性者への視覚的ナラティブ情報発信による健康支援ツールの開発
	准教授	川原 靖弘	脳機能解析手法による持続的な環境騒音の生態影響評価
心理と教育	教 授	苑 復傑	成長路線転換期における中国高等教育の政策と課題
社会と産業	教 授	柳原 正治	領域概念の歴史的多様性に関する研究
自然と環境	教 授	橋本 健朗	精密分子振動解析法の開発による溶媒と超原子価ラジカルの研究
	教 授	石崎 克也	関数方程式間の相互関係についての研究
情 報	教 授	中川 一史	タブレット端末環境下に求められる思考の可視化に活用できるマッピングアプリの開発
	教 授	仁科 エミ	可聴域をこえる高周波を喪失したデジタルアーカイブの高周波補完法の開発と評価
	准教授	高橋 秀明	情報生態学の構築:人間のプロセス制御行動を事例に

放送大学教育振興会助成による研究:多様なメディアの研究開発、教材及びシステム等の研究開発

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
生活と福祉	教 授	大曾根 寛	放送大学における子育て支援科目の充実と体系化に関する研究
	教 授	戸ヶ里 泰典	反転授業方式による看護・保健系大学院生のための統計解析学習プログラム構築の試み
社会と産業	教 授	河合 明宣	ブータン王立大学との国際交流協定に基づくオンライン科目共同制作を通じた放送大学教材のブータンへの普及・協力事業
	教 授	高橋 和夫	サーバー空間におけるセキュリティの研究
	教 授	坂井 素思	放送大学印刷教材等の教材アーカイブ化とアーカイブの大学院教育への応用
人間と文化	准教授	大橋 理枝	放送大学のオンライン科目で音声添削を行うためのシステム改良
情 報	准教授	高橋 秀明	遠隔教授学習過程の記述:放送大学オンライン授業を対象に
	准教授	鈴木 一史	放送大学オンライン科目の携帯端末視聴システムに関する研究
	准教授	秋光 淳生	放送大学型アクティブ・ラーニングのための教材開発
自然と環境	教 授	石崎 克也	モバイル学習世代に向けた統計学・データサイエンス教育のための印刷教材e-Book化に関する研究 ～テキスト・映像・データ・分析ソフト・評価コンテンツの統合～

放送大学教育振興会助成による研究:教材の海外への普及・協力事業、国際交流の促進事業

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
人間と文化	教 授	稲村 哲也	遊牧社会における遠隔教育の試行と研究ーモンゴルを中心に

放送大学教育振興会助成による研究:機関特別推進研究等に係る助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
	副学長	來生 新	放送大学の多様な学習支援システムの開発及び効果的な学生増加方策の検証について

日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究(氏名は代表者)

所 属	職 名	氏 名	研究種目	研究課題名
人間と文化	教授	近藤 成一	基盤A	未刊古文書積文作成のための協調作業環境の構築
情報	教授	山田 恒夫	基盤A	生涯学習基盤としての大規模オンラインコース(MOC)の構築と運用に関する研究
自然と環境	教授	谷口 義明	基盤A	スーパーウインドによる銀河と銀河間物質の共進化
	副学長	宮本 みち子	基盤B	若者期の生活保障の構築に向けた国際比較研究～社会的に排除される若者層を中心に～
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	基盤B	全国代表サンプルによるストレス対処力SOCを規定する社会的要因に関する実証研究
心理と教育	教授	岩崎 久美子	基盤B	教育格差は正のための社会的セーフティネットシステム形成に関する総合的研究
	教授	小川 正人	基盤B	近年の教育行政関係法制の改正と地方教育行政の変化に関する調査研究
	教授	田中 統治	基盤B	アジア比較に基づく基礎教育課程の「一貫制」に関する理論的・実践的研究
社会と産業	教授	河合 明宣	基盤B	インド経済圏内の食品流通システムの展開方向と日本農産物の輸出可能性の究明
人間と文化	教授	内堀 基光	基盤B	「老いの文化」の形成と機能に関する比較に基づく人類学的研究
情報	教授	加藤 浩	基盤B	多人数講義におけるアクティブ・ラーニングを支援するグループウェアの開発
	教授	近藤 智嗣	基盤B	コンピュータビジョンと行動分析による複合現実感展示システムのインテリジェント化
	准教授	浅井 紀久夫	基盤B	技能伝承のための触力覚分散協調訓練の生体信号適応制御による円滑化
生活と福祉	教授	奈良 由美子	基盤C	日本社会にあった生活リスクリテラシーの視座確立と実践モデルの開発
	准教授	川原 靖弘	基盤C	脳機能解析手法による騒音評価指標の構築
心理と教育	准教授	小林 真理子	基盤C	がん患者の子どもと家族への支援リソースの開発に関する研究
人間と文化	教授	内堀 基光	基盤C	家族史から接近するサラワク・イバン社会におけるモダニティの形成
	准教授	大橋 理枝	基盤C	分野横断的な科学リテラシーの創造とそれに向けたプラットフォーム構築に関する研究
情報	教授	大西 仁	基盤C	聴覚機構に基づく感覚的協和間モデル
	教授	黒須 正明	基盤C	製品・サービスの意味性を明らかにするビジネスマイクロエスノグラフィ手法の開発
	教授	中谷 多哉子	基盤C	漸進型要求獲得のための計画と観測に関する手法および支援環境の開発
	准教授	秋光 淳生	基盤C	社会人の自発的協同学習を誘発するオンライン学習環境の開発
自然と環境	教授	加藤 和弘	基盤C	都市緑地内のバードサンクチュアリは鳥類の生息場所として寄与するか
	教授	松井 哲男	基盤C	物質の極限状態の理論的研究
	准教授	大森 聡一	基盤C	単鉱物地質温度圧力計体系の確立
	准教授	安池 智一	基盤C	電子の集団運動を利用した高感度微視的化學環境プローブ手法の理論的開拓
奈良SC	所長	三野 博司	基盤C	アルペール・カミュ研究ー「暴力」に抗する文学と思想
	客員教授	道幸 哲也	基盤C	個別労働条件の集団的性格・職場のルール決定プロセスの研究・集団法の見直しを視野に
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	挑戦萌芽	慢性疾患患者を対象としたストレス対処力向上プログラムの構築
情報	教授	加藤 浩	挑戦萌芽	共通教育情報メタデータによる学習ビックデータの論理的統合と利活用システムの構築
	教授	辰己 丈夫	挑戦萌芽	情報倫理・情報セキュリティと自閉症スペクトラムとの関連分析
	准教授	辻 靖彦	若手B	個人と組織による授業改善を支援する分散型ラーニング・デザイン作成支援環境の構築
自然と環境	プロジェクト研究員	梅畑 豪紀	研究スタート支援	原始銀河団における爆発的星形成活動の起源と進化の解明

その他、民間研究財団等の助成で行っている研究

所属	職名	氏名	助成の名称	研究課題名
社会と産業	教授	児玉 晴男	公益財団法人 北野生涯教育振興会研究助成	デジタル教科書の著作権処理の対応に関する研究
人間と文化	教授	稲村 哲也	学術研究振興資金	「山岳高所・遊牧地域における社会変容と遠隔教育の試行と研究 —ブータンとモンゴルを中心に」

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は放送大学の専任教員が日ごろの研究成果を発表する場である。
2016年版を2017年3月に発行した。

2016年度放送大学研究年報(第34号)著者及び論題一覧

著者	論題
石丸 昌彦	うつ病増加の背景要因に関する覚書
原田 順子	「ランク・オーダー・トーナメント理論」または 「遅い昇進仮説」は日本の大企業に適用され得るか～ 1990年代後半における日本の大企業事例から～
野内セサル良郎・稲村 哲也	野内与吉の生涯と日本人ペルー移住： 「マチュピチュ村創設者・野内与吉と古代アンデス文明」展開催
稲村 哲也・スヘー・バトルガ 石井 祥子・石黒 聡士・鈴木 康弘	モンゴルにおけるレジリエンスに関する学際共同研究 ——地震被害・活断層調査
大橋 理枝	オバマ大統領広島訪問を報じるアメリカ主要5紙の記事の比較
黒須 正明	ユーザ工学と経験工学
近藤 智嗣・沼田 尚道・齋田 豊 渡辺 知尚・金子 肇	放送とインターネットの融合による授業番組の展開の可能性 —ハイブリッドキャストの活用について—
大淵 憲一・山本 雄大・謝 暁静	謝罪受容に対するパーソナリティ要因の検討： 実体信念と寛容性の効果
坂内 徳明	グリャーニエ（民衆遊歩）の発見 ——ソビエト末期におけるロシア民衆文化史研究の始まり
鹿島 正裕	チュニジアの民主化はなぜ成功したか ——失敗した他のアラブ諸国と比較して
上野 達彦	帝政ロシア時代の刑法学者・タガンツェフについて (前稿の発展形式としての続き)
三野 博司	カミュにおける殺人と潔白
河合 明宣・ツェリン・ワンディ バルジョー・ガレイ・チミ・ドルジ 三輪 眞木子・山田 恒夫	プロジェクト報告ICTで実現するブータンの GNH(国民総幸福)社会
大森 聡一	宇宙地球科学分野のリモート実験室計画
安池 智一	『光学』におけるニュートンの物質観
島内 裕子	『枕草子春曙抄』の注釈態度とその影響力



放送大学研究年報 第34号

研究成果の発表・普及【書籍】

放送大学の専任教員・学習センター所長は、研究の成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の書籍を編集・執筆している。また辞書・辞典の編纂も行っている。これらの書籍は市販されていて購入することが可能である。また、放送大学や公共の図書館な

どに所蔵されているので、閲覧可能である。放送授業や印刷教材の内容とは異なり、より専門的かつ先進的な内容を含んでいるので、各教員が日々取り組んでいる研究テーマや研究活動・成果に深く触れる絶好の機会となるので積極的に手にとってみて欲しい。

専攻・氏名	書籍名・辞典名	出版社
副学長	宮本 みち子 『若者研究の展開』鳥越皓之・金子 勇編 『現場から作る社会学理論—思考と方法』	ミネルヴァ書房
生活と福祉	石丸 昌彦 『健康への歩みを支える—家族・薬・医者への役割』 (キリスト教カウンセリング講座ブックレット19)	キリスト新聞社(単著)
	関根 紀子 平成27年度 体力・運動能力調査報告書(内藤久士, 鈴木宏哉, 関根紀子他)	スポーツ庁
心理と教育	岩崎 久美子 『図書館と学校が地域をつくる』	学文社 2016年 (公益財団法人図書館振興財団編著、分担執筆)
	小川 正人 『経験資本—首都圏大学生949人の大規模調査結果』	明石書店 2016年(共著)
	田中 統治 批判的教育学事典(共監訳)	三省堂 明石書店
社会と産業	梅干野 晁 『地球とつながる暮らしのデザイン』 分担(熱があふれた街から涼しい街へ)pp72-79 『環境問題のとらえ方と解決方法』分担 第12章 都市のヒートアイランド現象とその対策 pp.204-223	木楽舎、2016.5 放送大学教育振興会、2017.3
	柳原 正治 『安達峰一郎—日本の外交官から世界の裁判官へ』	放送大学教育振興会、2017.3 東京大学出版会、2017年2月(共編)
	稲村 哲也 『世界遺産マチュピチュに村を作った日本人「野内与吉物語」—古代アンデス文明の魅力』 “Disaster resilience learned from the 2007 earthquake in Peru”, Hayashi, Yoshitsugu, Yasuhiro Suzuki, et al. (eds.), Disaster Resilient Cities: Concepts and Practical Examples. pp.41-50	新紀元社(野内セサル良郎との共編著) ELSVIER, Oxford, UK, Cambridge, USA
人間と文化	魚住 孝至 『熱帯高地アンデスにおける狩猟民から家畜飼養民への道—アルパカ毛の利用に着目して』 (池谷和信編)『狩猟採集民からみた地球環境史 自然・隣人・文明との共生』	東京大学出版会
	内堀 基光 『NHK100分de名著 宮本武蔵 五輪書』	NHK出版
	近藤 成一 An Institution Called Death: Towards Its Arche', in KAWAI, K. ed. “Institutions: Evolution of Human Sociality”	Trans Pacific Press and Kyoto University Press, pp.39-58.
	島内 裕子 『朝河貫一と日欧中世史研究』海老澤衷・近藤成一・基野尚志編 『方丈記と住まいの文学』 『吉田健一著・昔話』	吉川弘文館 左右社 講談社文芸文庫、解説
情報	加藤 浩 加藤浩, 望月俊男編: “協調学習とCSCL” 加藤浩訳: “第24章コンピュータに支援された協調学習”, 学習科学ハンドブック(第2版) R.K.ソーヤー編	ミネルヴァ書房 北大路書房, 2 pp.199-216
	鈴木 一史 POV-Rayで学ぶ はじめての3DCG制作 - つくって身につく基本スキル -、 松下孝太郎、山本光、柳川和徳、鈴木一史、星和麿、羽入敏樹	講談社、2017年2月
	辻 靖彦 高等教育機関における ICT の利活用に関する調査研究結果報告書	大学ICT推進協議会 (AXIES) ICT利活用調査部会
宮城学習センター	大淵 憲一 日本犯罪心理学会(編)『犯罪心理学辞典』(副編集長として参加)	丸善出版
茨城学習センター	横沢 正芳 理工系の基礎物理学	培風館(共著)
奈良学習センター	三野 博司 『カミュを読む—評伝と全作品』, p.1-420	大修館書店
香川学習センター	大平 文和 他 『放送大学に学んで—未来を拓く学びの軌跡—』 (編著者: 放送大学中国・四国ブロック学習センター)	東信堂

研究成果の発表・普及【論文】

大学教員の教育の原動力になるものは専門の研究である。ここから湧き出る問題を追い求める力が、忍耐力を高め、新たな発見を生み出す。放送大学の専任教

員・学習センター所長は、各分野・領域における専門家である。研究論文は審査を受け学術雑誌から世に放たれる。2016年度に発表された、学術論文を紹介する。

専攻・氏名		論文名	発表	
副学長	宮本 みち子	「日本における成人期への移行モデルと若者政策—家族と仕事の変容から—」	『家族関係学』第35号	
		「若年無業者政策と課題」	『日本労働研究雑誌』第678号	
生活と福祉	関根 紀子	「失われた20年」の若者世代の貧困	『都市社会研究』No.9	
		Tsuzuki T, Kobayashi H, Yoshihara T, Kakigi R, Ichinoseki-Sekine N, Naito H. Attenuation of exercise-induced heat shock protein 72 expression blunts improvements in whole-body insulin resistance in rats with type 2 diabetes.	Cell Stress Chaperones. 2017 Mar;22(2):263-269.	
		Akin S, Naito H, Ogura Y, Ichinoseki-Sekine N, Kurosaka M, Kakigi R, Demirel HA. Short-term treadmill exercise in a cold environment does not induce adrenal Hsp72 and Hsp25 expression.	J Physiol Sci. 2017 May;67(3):407-413.	
	吉村 悦郎	Deng P, Ichinoseki-Sekine N, Zhou L, Naito H. Changes in physical activity and weight status of Chinese children: A retrospective longitudinal study.	J Phys Fitness and Sports Med. 2016 Jul;5(3):247-256.	
		Cucumis sativus secretes 4'-ketoriboflavin under iron 1 deficient conditions. Junichi Satoh, Hiroyuki Koshino, Kouta Sekino, Shinsaku Ito, Ryo Katsuta, Kouji Takeda, Etsuro Yoshimura, Fumie Shinmachi, Shinji Kawasaki, Youichi Niimura, and Tomoo Nukada	Biosc. Biotech. Biochem. 80, 363-367 (2016).	
		Microstructure of iridescence-lacking pearl formed in Pinctada fucata. Michio Suzuki, Hiroki Mukai, Hideo Aoki, Etsuro Yoshimura, Shohei Sakuda, Hiromichi Nagasawa	Journal of Crystal Growth, 433, 148-152, (2016).	
		Determination of ferric iron chelators by high-performance liquid chromatography using luminol chemiluminescence detection. Tomoko Ariga, Yuki Imura, Michio Suzuki, Etsuro Yoshimura.	Journal of Chromatog. B, 1014, 75-82, (2016).	
		Sample preparation of the macro alga Pyropia yezoensis for the determination of messenger RNA. Ko Yoshimura, Chika Kosugi, Yuki Imura, Toshiaki Kato, Michio Suzuki, Etsuro Yoshimura.	Anal. Lett. 49, 2851-2863 (2016).	
		Molecular cloning and functional analysis of chitinases in the fresh water snail, Lymnaea stagnalis. Mai Yonezawa, Shohei Sakuda, Etsuro Yoshimura, Michio Suzuki.	J. Struct. Biol. 196, 107-118 (2016).	
		Formation of gold nanoparticles by glycolipids of Lactobacillus casei. Fumiya Kikuchi, Yugo Kato, Kazuo Furihata, Toshihiro Kogure, Yuki Imura, Etsuro Yoshimura, Michio Suzuki.	Sci. Rep. 6: 34624 (2016).	
Synthesis of CdSe quantum dots using Fusarium oxysporum. Takaaki Yamaguchi, Yoshiji Tsuruda, Tomohiro Furukawa, Lumi Negishi, Yuki Imura, Shohei Sakuda, Etsuro Yoshimura, Michio Suzuki.	Materials 9: 855 (2016).			
心理と教育	小川 正人	「自治体教育行政の動向と課題—2014年地教行法改正と新教育委員会制度の課題—」	『子どもの権利研究』第28号 13頁～22頁 子どもの権利条約総合研究所	
		「教員の長時間労働と給特法—給特法の問題点と改廃の課題—」	『季刊 教育法』第192号 72頁～77頁 エイデル研究所	
	田中 統治	学習指導要領改訂と授業改善	月刊高校教育2017年2月号(学事出版)、pp.22～25.	
社会と産業	岡田 光正	平岡善代典、大道優平、中原真哉、川本康功、寺脇利信、岡田光正(2016)広島湾今津川河口における台風によるアマモ場消失後の天然アマモ場の回復特性と旧航路帯の埋め戻しによるアマモ場の自律的な再生	水環境学会誌、39(4)、97-102	
		児玉晴男、職務発明の権利帰属と職務著作の権利帰属との整合性	特許、Vol.69、No.6、pp.38-46、2016年4月10日	
		児玉晴男、オープンサイエンスとオープンアクセスの法的な課題	最先端技術関連法研究、No.16、pp.1-19、2017年3月31日	
人間と文化	稲村 哲也	児玉晴男、IoT/M2Mと人工知能による人工物における情報管理	企業法学会研究、Vol.5、No.1、pp.1-24、2017年3月31日	
		Raute Nepalese Monkey Hunters and their Changing Relations with the Outside World. Ikeya, Kazunobu & Robert K. Hitchcock (eds.)	Hunter-Gatherers and their Neighbors in Asia, Africa and South America. Senri Ethnological Studies 94 (National Museum of Ethnology)	
情報	魚住 孝至	書評「井上克人著『時と鏡』 超越論的覆蔽性の哲学—道元・西田・大拙・ハイデガーの思索をめぐって—」	実存思想集31集「精神分析と実存」175～178頁・理想社	
		井上由貴子、加藤浩:「科学技術低関与層に届くサイエンスコミュニケーションの実践報告:参加者を伝達者にするワークショップ・デザインの提	日本科学教育学会、科学教育研究、41(1)、pp.23-35	
	加藤 浩	杉山いおり、渡辺雄貴、加藤浩、西原明法:「企業内eラーニングにおける社会人の最終学習状態推定」	日本教育工学会論文誌、40(Suppl.)、pp.85-88	
		松田岳士、山田政寛、合田美子、加藤浩、宮川裕之:「自己調整学習を支援するセルフ・レギュレータの開発と形成的評価」	日本教育工学会論文誌、40(Suppl.)、pp.137-140	
	辻 靖彦	大田剛、森本容介、加藤浩:「諸外国のプログラミング教育を含む情報教育カリキュラムに関する調査:英国、オーストラリア、米国を中心として」	日本教育工学会論文誌、40(3)、pp.197-208	
		佐々木博史、望月俊男、脇健弘、平山涼也、久保田善彦、鈴木栄幸、舟生日出男、加藤浩:「えでゅーすばーど:タンジブル箱庭人形劇による授業シミュレーション支援システム」	ヒューマンインタフェース学会、ヒューマンインタフェース学会論文誌、18(3)、pp.195-208	
	自然と環境	加藤 和弘	Masanori Yamada, Yoshiko Goda, Takeshi Matsuda, Yutaka Saito, Hiroshi Kato, Hiroyuki Miyagawa: "How does self-regulated learning relate to active procrastination and other learning behaviors?"	Journal of Computing in Higher Education, 28(3)、pp.326-343
			竹生久美子、辻 靖彦、eラーニング科目における受講ペースと成績との関連	日本教育工学会論文誌、pp.153-156、40(Suppl.)
		加藤 和弘	加藤和弘・樋口広芳(2016) 噴火が鳥類群集に及ぼす影響:伊豆諸島三宅島の事例を中心に Matsuba, M., Nishijima, S. & Katoh, K. (2016). Effectiveness of corridor vegetation depends on urbanization tolerance of forest birds in central Tokyo, Japan	地球環境、21(1)、33-42 Urban Forestry & Urban Greening, 18, 173-181
	安池 智一	加藤和弘・若山睦月(2017) 千葉市西部の住宅地における鳥類相を規定する要因 奥村友佳・加藤和弘(2017) 玉川上水緑道の鳥類種組成に影響する要因	ランドスケープ研究 80(印刷中) ランドスケープ研究オンライン論文集(印刷中)	
"Imaging Electronic Excitation of NO by Ultrafast Laser Tunneling Ionization", Tomoyuki Endo, Akitaka Matsuda, Mizuho Fushitani, Tomokazu Yasuike, Oleg I. Tolstikhin, Toru Morishita, and Akiyoshi Hishikawa ※日本の研究.com 2016年4月22日、OPTRONICS ONLINE 2016年4月25日、中日新聞 22面 2016年5月14日で報道される。		Phys. Rev. Lett. 116 (2016) 163002.		
宮城学習センター	大淵 憲一	"Disentangling Multidimensional Nonequilibrium Dynamics of Adsorbates: CO Desorption from Cu(100)", Ken-ichi Inoue, Kazuya Watanabe, Toshiki Sugimoto, Yoshiyasu Matsumoto, and Tomokazu Yasuike ※Editor's Choiceに選定され、米国物理学会WebサイトPhysicsにて "Viewpoint: The Calisthenics of Surface Femtochemistry"として紹介される。	Phys. Rev. Lett. 117 (2016) 186101.	
福井学習センター	梅澤 章男	森文弓・高橋哲・大淵憲一「再犯防止に効果的な矯正処遇の条件:リスク原則に焦点を当てて」	『心理学研究』第87巻、第4号、325-333頁	
岐阜学習センター	岡野 幸雄	寺井堅祐・梅沢章男 2015 緩徐なペース呼吸がガス代謝に及ぼす影響	生理心理学と精神生理学 33(3) 205-214	
		寺井堅祐・梅沢章男 2016 呼吸セルフコントロールによる呼吸感覚の変化	バイオフィードバック研究、43巻・第2号、45-52.	
奈良学習センター	三野 博司	反中亜弓・寺井堅祐・梅沢章男(印刷中)中学生におけるアレキシサイミア傾向が身体不調感におよぼす影響	Journal of Health Psychology Research	
山口学習センター	阿部 憲孝	Four-and-a-half LIM Domains 1 (FHL1) Protein Interacts with the Rho Guanine Nucleotide Exchange Factor PLEKHG2/FLJ00018 and Regulates Cell Morphogenesis. Sato K, Kimura M, Sugiyama K, Nishikawa M, Okano Y, Nagaoka H, Nagase T, Kitade Y, Ueda H.	J. Biol Chem (2016) 291(48) pp25227-25238	
香川学習センター	大平 文和	« Le Cimetièrre chez Camus »	Présence d' Albert Camus, No 8, Société des Études camusiennes , p. 48-66	
香川学習センター	大平 文和	Synthesis of 2-Arylamino-1-azaazulenes. Satoru Tsukada, Makoto Nakazawa, yuya Okada, Keito Ohtsu, Noritaka Abe, and Takahiro Gunji, Heterocycles	Publishes online: 15th December, 2016. DOI: 10.3987/COM-16-S(S)48	
		K. Terao, C. Masuda, R. Inukai, M. Gel, H. Oana, M. Washizu, T. Suzuki, H. Takao, F. Shimokawa, F. Oohira: "Characterization of optically-driven microstructures for manipulating single DNA molecules under a fluorescence microscope"	IET Nanobiotechnology, Vol.10, pp.124-128, 2016.	
		J. Suzuki, Y. Onishi, K. Terao, H. Takao, F. Shimokawa, F. Oohira, H. Miyagawa, T. Namazu, and T. Suzuki, "Development of a two-dimensional scanning micro-mirror utilizing magnetic polymer composite"	Japanese Journal of Applied Physics, Vol.55, ID:06GP01, 2016.	
		J. Suzuki, K. Terao, H. Takao, F. Shimokawa, F. Oohira, H. Miyagawa and T. Suzuki, "Development of Magnetically Driven Microvalve Using Photosensitive SU-8/Fe Composite"	International Journal of Applied Electromagnetics and Mechanics, accepted.	

国際交流の取り組み

2016年度は、本学が加盟する国際組織の会議での発表や海外の交流協定機関での講演等により連携強化を図った。また、海外の遠隔教育機関への本学教員の派遣調査及び海外からの来訪が多数あり、積極的な国際交流に取り組んだ一年となった。

第30回AAOU2016年次大会への参加

2016年10月26日から29日までフィリピン・マニラ市で、アジア公開大学連合 (AAOU=The Asian Association of Open Universities) 第30回年次大会が、フィリピン公開大学により開催された。テーマは、「Open Education in Asia: Changing Perspectives」(アジアにおける公開教育:視点の変化)とし、本学からはAAOU理事である岡部学長、情報コースの近藤教授、山田教授、芝崎准教授、また事務局から1名が参加した。

岡部学長は、全体会で「アジアの公開大学における新しいマーケット」をテーマに、日本の大学が現在抱える問題点に言及しながら、今後のアジアの公開大学における学生数増の展望について語った。また閉会式では、オンラインコース制作に関する困難について発表し

た近藤教授が「Best Practice Award」銀賞を本学教員として初めて受賞した。



Best Practice Award を授与される近藤教授

第7回日中韓セミナーへの参加

2016年10月12日～14日、2009年から本学、韓国放送通信大学校 (KNOU) および中国国家開放大学 (OUC) が協力し開催してきた第6回日中韓セミナーが、ソウル市で開催された。「Exploring New Roles of Open Universities in Korea, China & Japan」(韓国、中国、日本における公開大学の新しい役割を模索して)をメインテーマとして計6名による発表があり、本学からは、岡部学長、情報コースの青木教授と辰巳教授、そして事務局から3名が参加した。

青木教授はオンライン授業制作及びLMSによる双方向性を活用した可能性について語った。辰巳教授は、オンラインとオフライン授業を融合させたコースデザインについて実例をあげて発表した。最後のパネルディスカッションでは発表者6名が登壇し、メインテーマに関連

して各々が意見を述べ、また講演内容についての質疑応答が行われた。

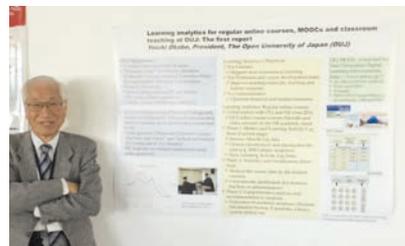


パネルディスカッションの様子

ICDE学長サミット2016への参加

2016年11月20日から23日、オーストラリア・シドニー市にて、国際遠隔教育会議(ICDE = International Council for Open and Distance Education)の学長サミット2016が、チャールズスチュート大学主催で開催された。「A New Era of Leadership & Quality: The Business of Open & Distance Learning 2020」(リーダシップの新時代:2020年の遠隔公開教育ビジネス)をテーマとし、岡部学長および岡田教育支援センター長が参加した。

学習解析に関するポスターセッションでは、岡部学長が「オンライン授業、MOOC、面接授業のための学習解析」というタイトルで、放送大学における教育ビッグデータを分析し、教育上の特性や問題点、改善点を促す手法になる学習解析活用の将来について発表した。



台湾国立空中大学との国際交流協定の締結

1993年より教員の交流や教材の交換等を行ってきた台湾国立空中大学と、より具体的な交流を図るために、国際交流協定の再締結を行った。台湾国立空中大学は10月31日、遠隔教育国際シンポジウムと創立30周年記

念式典を開催し、小寺山副学長がオンライン授業に備えたシニア学生へのパソコン教育及び少子化時代の若い学生確保のための対策について講演した。その後、陳松柏学長との間で国際交流協定の調印式が挙行された。

2016年度放送大学国際シンポジウムの開催

2017年3月15日「海外の公開大学から学ぶ放送大学の未来」をテーマに、2016年度放送大学国際シンポジウムを開催し、本学の専任教員が各国の公開大学等を訪問・調査した内容が本学教職員を対象に報告された。また、ポルトガル公開大学よりアントニオ・テシェイラ教授が特別講演者として登壇し、放送配信授業のオン

ライン化に成功した事例を紹介した。パネルディスカッションでは、オンライン教育上の具体的な課題や問題点について、活発な意見交換が行われ有意義なシンポジウムとなった。

発表者	所属コース	訪問大学
川原准教授	生活と福祉	英国・オープンユニバーシティ他
小野教授	心理と教育	スペイン・国立通信教育大学
河合教授、北川准教授	社会と産業	香港公開大学、SIMシンガポール・大学
稲村教授	人間と文化	ブラジル・サンパウロ大学、マテグロソ連邦大学
辰己教授	情報	台湾・国立空中大学、高雄市立空中大学



海外からの来訪

2016年度も、下記のとおり外国からの訪問者が遠隔教育に関する情報交換等のために本学を訪れた。

月日	来訪者	国名	月日	来訪者	国名
5月9日～10日	アナドル大学(2名)	トルコ	10月31日～11月4日	ブータン王立大学シェルブツェ・カレッジ(1名)	ブータン
5月11日	教育省、ラオス国立大学(4名)	ラオス	11月14日	ティミショアラ西大学(2名)	ルーマニア
10月4日	ブリティッシュコロンビア大学(1名)	カナダ	3月14日～15日	ポルトガル公開大学(1名)	ポルトガル
10月13日	雲南開放大学(5名)	中国	3月28日	ホーチミン公開大学(30名)	ベトナム
10月31日	上海開放大学(5名)	中国			

社会への貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。多岐にわたる社会貢献活動を行っているが、ここではその中から、本学の教員が行った活動の一部を紹介する。

日本学術会議

日本学術会議は、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年(1949年)1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された。職務は、以下の2つである。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野における科学者約84万人を内外に代表する機関である。210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主に①政府に対する政策提言、②国際的な活動、③科学者間ネットワークの構築、④科学の役割についての世論啓発である。

本学の教員も連携会員に選ばれ、その活動に貢献している。

下表は本学の会員加入状況を示すものである。

氏名	職名	専門分野
稲村 哲也	教授	地域研究、環境学
小川 正人	教授	心理学・教育学、社会学
梅干野 晁	教授	土木工学・建築学
宮本 みち子	副学長	社会学

学会、国、地方自治体等での活動

本学の教員は学識者として、それぞれの専門性を生かし、社会において幅広く活躍している。活躍の場は学会の

みならず、国・地方自治体等の様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

氏名	職名	役職
宮本 みち子	副学長	日本学術会議連携会員 社会学、社会保障審議会委員、中央教育審議会臨時委員、宗教法人審議会委員、社会保障審議会生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会委員 内閣府子ども若者評価・点検委員会座長、内閣府子どもの貧困対策に関する委員会座長、横浜市専門委員
稲村 哲也	教授	日本学術会議連携会員、愛・地球博記念公園 公園マネジメント会議会長、長久手市国際交流協会会長 「マチュピチュ村創設者・野内与吉と古代アンデス文明」展開催(放送大学・日本マチュピチュ協会・福島民報社主催、2016年8月7日～8月28日、開催場所:二本松市市民交流センター、福島県) 「マチュピチュの出会いと古代アンデス文明」展開催(放送大学・日本マチュピチュ協会主催、2016年12月3日～12月25日、開催場所:横浜みなと博物館) 「愛・地球博とグレートジャーニー(人類の旅)」展開催(愛知県主催、2017年3月4日～3月26日、開催場所:愛・地球博記念館(愛・地球博記念公園内、長久手市))
岩崎 久美子	教授	文部科学省 中学校夜間学級の設置促進事業推進委員会委員、文部科学省 生涯学習に関する世論調査結果分析協力者会議協力者 千葉県千葉市 新基本計画審議会(政策評価部会)委員、東京都武蔵野市教育委員会 社会教育委員の会議副議長、東京都杉並区 子ども読書活動推進懇談会座長 独立行政法人国立青少年教育振興機構 評価委員、独立行政法人日本学生支援機構 官民協働海外留学支援制度選考委員会専門選考委員
魚住 孝至	教授	文部科学省教科用図書検定委員(『現代社会』『倫理』小委員長)、日本倫理学会 監事・編集委員、実存思想協会 理事・編集委員
内堀 基光	教授	日本文化人類学会 評議員、日本学術振興会 博士課程教育リーディング大学院プログラム委員会委員
小川 正人	教授	文部科学省・中央教育審議会副会長(第8期～第9期)、文部科学省・中央教育審議会初等中等教育分科会長(第8期～第9期)、日本学術会議連携会員 国立教育政策研究所評議員(評議員会会長)、教科書研究センター理事、目白大学理事・評議員、 独立行政法人大学評価・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会専門委員、兵庫教育大学教育政策アドバイザー 養成カリキュラム研究開発評価委員会委員、 東京都教育庁「東京都におけるチームとしての学校の在り方検討委員会」委員長、東京都文京区「小中連携教育検討委員会」会長
岡田 光正	教授	中央環境審議会委員(水環境部会長、土壌農業部会長、環境保健部会長)、有明海・八代海等総合評価委員会 委員長、広島市環境審議会 会長
加藤 和弘	教授	一般社団法人環境情報科学センター 理事、千代田区生物多様性推進会議 副議長、東京大学工学部非常勤講師「生態学・生態工学」(12回中7回を分担) 平成27年度環境影響評価法に基づく報告書の在り方に関する検討委員会(日本環境アセスメント協会、環境省委託業務) SEGES(社会・環境公権力地表カシステム)改訂委員会委員(公益財団法人都市緑化機構)、文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター 専門調査員 東京都公園協会 生物多様性研修「モニタリング調査研修(鳥類)」(2017/2/14)
加藤 浩	教授	中央教育審議会生涯学習分科会専門委員(学習成果活用部会)、日本教育工学会 理事 論文誌編集委員会 副編集長、日本科学教育学会編集委員会編集幹事 「平成28年度ICTを活用した「生涯学習プラットフォーム(仮称)」の構築に関する調査研究」評価委員
児玉 晴男	教授	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 国立大学教育研究評価委員会 専門委員(新領域法學、学習支援システム)(2016年1月～2017年3月)、一般社団法人 企業法学会(日本学術会議協力学術研究団体)理事 一般社団法人 日本機械学会(日本学術会議協力学術研究団体)法工学専門会議 運営委員会 委員、足立区個人番号カード交付等関連業務委託評価委員会 委員
近藤 成一	教授	日本古文書学会 評議員、日本歴史学会 評議員
佐藤 良明	教授	表象文化論学会 会長
田中 統治	教授	神奈川県立高等学校入学者選抜調査改善委員会(委員長)、茨城県つくば市竹園学園学校評議員・外部評価員
梅干野 晁	教授	日本学術会議連携会員(土木工学・建築学)

氏名	職名	役職
柳原 正治	教授	日本学術会議連携委員、国際法学会評議員会 会長(2016年6月まで)、世界法学会 理事、国際法協会日本支部 理事、九州国際法学会 理事長
吉村 悦郎	教授	文部科学省 平成28年度教育関係共同利用拠点制度 審査委員、日本農学会 農学進歩賞受賞者 選考委員会委員、日本分析化学会 分析実技シリーズ 編集委員 一般財団法人発電設備技術検査協会 環境システム評価委員会委員長、立教大学 立教大学ライフサイエンスに係る研究・実験の倫理及び安全委員会 委員
大西 仁	准教授	日本認知科学会監査委員
関根 紀子	准教授	日本体力医学会 評議員、文部科学省体力・運動能力調査 協力者
辻 靖彦	准教授	大学ICT推進協議会 ICT利活用調査部会 委員
大淵 憲一	宮城学習センター所長	独立行政法人大学評価・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員、同 人文学系における大学教育の分野別質保証のあり方に関する調査研究会委員 宮城県安全・安心まちづくり委員会会長、日本心理学会公開シンポジウム「紛争問題を考える」企画・実施
西田 正吾	大阪学習センター所長	一般社団法人システム制御情報学会 会長、ヒューマンインタフェース学会 評議員、日本学術振興会科学研究費委員会 専門委員、一般財団法人徳徳堂記念会 評議員 奈良女子大学大学院人間文化研究科生活工学共同専攻外部評価委員、JST CREST「共生社会に向けた人間調和型情報技術の構築」事後評価委員会 委員長
三野 博司	奈良学習センター所長	Vice Président de la Société des Études camusiennes (国際カミュ学会副会長)
大平 文和	香川学習センター所長	大学連携e-Learning教育支援センター四国外部評価委員会委員長、四国職業能力開発大学校部会委員(座長) 一般財団法人「大西・アイ記念財団」奨学金給付選考委員会委員、文部科学省微細加工プラットフォーム事業委員、かがわ健康関連製品開発地域プロジェクトディレクター
菊川 律子	福岡学習センター所長	中央教育審議会委員(生涯学習分科会副会長)、国立大学法人分科会評価チーム員、福岡県社会教育委員

一般向け講演会

大学で培われた教育ならびに研究の成果を広く社会に提供することは、大学と社会との垣根を取り去り、相互のさらなる発展が期待される。本学の教員は、そ

の専門知識を、講演会を通じて社会に還元している。以下にその活動の一部を紹介する。

一般向け講演会			
講師	職名	テーマ	共催等
宮本 みち子	副学長	「若者の現状と未来に向けて」	熊本学園大学社会福祉研究所創立50周年記念シンポジウム
		「子どもへの社会投資が未来を開く」	ちゅうでん教育大賞記念講演会
		生涯学習社会における多様な能力開発と働き方 ー「仕事」と「学び」のあり方を考えるー	放送大学学園・労働政策研究・研修機構主催 労働政策フォーラム基調講演
		「若者就労支援の現状と中間的就労の可能性」	新潟地域若者サポートステーション開設9周年記念フォーラム
岩崎 久美子	教授	「男もつらいよ 問題提起」	(独) 国立女性教育会館主催男女共同参画推進フォーラム
		「貧困と格差の社会にしないために～子ども・若者から高齢者までの実態から」	日本地域福祉学会主催国際地域福祉シンポジウム
		「無縁社会にしないために～私たちにできること～」	(公財)日本臨床心理士資格認定協会主催第26回心の健康会議
福岡 哲也	教授	教育学とエビデンス	日本体育学会第67回大会
内堀 基光	教授	“Resilience from the View Point of Cultural Anthropology”	UNCRD (United Nations Centre for Regional Development 国連地域開発センター、名古屋) 設立45周年記念専門家会合
		基幹研究「アジア・アフリカにおけるハザードに対する「在来知」の可能性の探求 ー人類学におけるミクロ・マクロ系の連関2」公開シンポジウム「体制転換の人類学(2)」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
		「文化人類学からの応答」	日本文化人類学会第50回研究大会記念シンポジウム 「人類の道徳性と暴力性をめぐってー隣接諸科学との対話ー」
小川 正人	教授	一般公開セミナー「科学と文化をつなぐーアナロジーという思考様式」合評会」	東京大学出版会セミナー
		基幹研究「アジア・アフリカにおけるハザードに対する「在来知」の可能性の研究 ー人類学におけるミクロ・マクロ系の連関2」公開シンポジウム、 「[もの]の人類学をめぐってー脱人間中心主義的人類学の可能性と課題」	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
近藤 成一	教授	「地教行法改正の論議と新教育委員会制度の課題」	兵庫県市町組合教育委員会研修会
		「近年の教育政策とチーム学校をめぐる課題」	大阪府高槻市教育センター・小中学校長研修会
		「チーム学校構想の背景とチーム学校づくりの課題」	全国市町村教育委員会研究協議会西日本ブロック研修会
		「関東武士の西遷」	熊谷市立熊谷図書館「直実・蓮生を学ぶ会」
佐藤 良明	教授	「天皇の生前讓位と鎌倉時代の政治」	浙江大学
		「中世日本の王権・日本中世政権の性質」	浙江大学
		「中世初期の王権と支配エリートー政治制度と文書の機能ー」	ボン大学DFG共同研究センター1167
島内 裕子	教授	「史料編纂所の歴史家たち」	立教大学文学部史学科主催公開シンポジウム 「史学科の比較史ー草創期から1945年」
		「「専門家」という甘えの構造」ーシンポジウム「いま教養教育を問う」	成城大学共通教育研究センター
田中 統治	教授	「方丈記と徒然草に学ぶ」	神戸市老眼大学
		「方丈記と徒然草の人生論」	放送大学埼玉学習センター・一般公開講演会
		「金沢ゆかりの文学 徒然草と吉田健一」	学都石川の才知
		「徒然草の古典力」	東京足立学習センター・公開講演会
吉村 悦郎	教授	一貫教育の実践について	新潟県糸魚川市教育委員会
		カリキュラム・マネジメントについて	山形県教育センター
		コミュニティ・スクールについて	茨城県つくば市豊里学園PTA
菊川 律子	福岡学習センター所長	アクティブ・ラーニングとカリキュラムの改善	茨城県つくば市教育委員会
		日本の教育課程改革の動向について	JICAミャンマー国 初等教育カリキュラム改訂プロジェクト・ 教科書開発のための国内研修
菊川 律子	福岡学習センター所長	ソルト・サイエンス研究財団 りんごの褐変を防ぐ食塩の効果とそのしくみ	ソルト・サイエンス・シンポジウム
		「2030年の社会を見据えた教育 改革と学校」	福岡県公立中学校教頭会研修会総会
菊川 律子	福岡学習センター所長	「これからの教育の動向」	福岡県筑紫地区小学校校長会研修会
		「これからの社会に求められる人材育成」	福岡県立学校初任者研修会
		「学校教育と男女共同参画社会」(2日間)	福岡県新任校長研修会

学習センターの活動、この1年

入学者の集い

4月と10月に、各学習センターで「入学者の集い」を開催した。全国で年間47,432名の学部生と5,063名の大

学院生（うち、博士課程13名）が入学し、放送大学における学びへの第1歩を踏み出した。



秋田学習センター



香川学習センター



大阪学習センター



熊本学習センター

名誉学生への表彰

2010年4月に、放送大学の全コース（旧：6専攻）すべてを卒業した学生に対して、本学において多年にわたって修学を継続した意欲的な学習者を顕彰するとともに、本学学生の学習意欲の向上を図ることを目的として「名誉学生」という制度を設立した。

2016年度は、19名が名誉学生となった。名誉学生の資格を得たものは、3月の学位記授与式で学長表彰された。

なお、2011年度の表彰より、全コースすべてを卒業したことに加え、人物、学習態度が良好であることが要件となっている。

名誉学生には、本学を卒業した後も、学習センターの各種施設を利用することができる等各種特典を付与している。



新任の学習センター所長

2016年度は7の学習センターで新たに学習センター所長が就任し、学習センターのさらなる充実と発展の為に活動に取り組んでいる。

新任の学習センター所長一覧

宮城学習センター	大瀨 憲一(おおぶちけんいち)	静岡学習センター	浅利 一郎(あざり いちろう)
栃木学習センター	井本 英夫(いもとひでお)	鳥取学習センター	小林 一(こばやし はじめ)
群馬学習センター	三田 純義(みた すみよし)	愛媛学習センター	村上 研二(むらかみ けんじ)
東京多摩学習センター	坂内 徳明(ばんない とくあき)		

5学習センターで周年記念式典を開催

秋田、滋賀、奈良、島根、宮崎の各学習センターでは開設20周年を迎え、記念式典を開催した。これらの学習センターでの記念講演会では岡部学長、小寺山副学長

が講演を行った。式典や講演等を通じ、参加者がふれ合い、学習センターの節目を祝った。



宮崎学習センター 記念講演と日向市職員によるひよっこ



秋田学習センター 記念講演と記念講演会



地域に根ざした教育

面接授業

本年度も、多彩な面接授業が各学習センターで開講された。いろいろな学問分野の基礎だけではなく、地域に根ざす様々なテーマに関する授業が、大学教員に加えて各界で活躍する講師が担当して開講され、多数の学生が受講した。

- 岐阜学習センター「高山陣屋文書を科学する」
- 愛媛学習センター「愛媛のライフサイエンス」
- 大阪学習センター「住吉大社御田植神事」
- 青森学習センター「白神学—白神の動物と植物」



岐阜学習センター「高山陣屋文書を科学する」



愛媛学習センター「愛媛のライフサイエンス」



大阪学習センター「住吉大社御田植神事」



青森学習センター「白神学—白神の動物と植物」

集いの場としての学習センター

放送大学の学習センターでは、学生が勉学活動に利用するだけではなく、サークル活動や様々な共通関

事に関して、学生の交流活動が活発に行われている。学習センターは学生の集う場ともなっている。

サークル・学生活動

学生同士の親睦を深め、学業のみにとどまらない豊かなキャンパスライフを築いてもらうために、放送大学はサークル活動を支援している。サークル活動の中で、

年齢やこれまでの人生経験が全く異なる人達と、共通の目的を持って活動することは、素晴らしい体験となるであろう。



八戸サテライトスペース「ミステリーサークル」



大阪学習センター「社交ダンスサークル ブルース界」



埼玉学習センター「朗読の会『こころ』」

文化祭

多くの学習センターでは、文化祭を開催し、学生の学習成果やサークル活動の成果を発表、披露している。文化祭は学生同士の交流の場であると同時に、教職員、そして地域の人々も参加し、交流を深める機会となっている。



鳥取学習センター「放大大まつり」



埼玉学習センター「埼玉フェスタ」



熊本学習センター「誰もが主役 煌く学びの灯」



岐阜学習センター「学生作品展」



大阪学習センター「放大河堀祭」

研修旅行

全国の学習センターでは学生間の交流を図るため、また学生と職員の交流を図ることを目的として、研修旅行を実施している。



岐阜学習センター
福井県立恐竜博物館・永平寺



熊本学習センター
雲仙・島原



愛媛学習センター
香川県直島「瀬戸内国際芸術祭2016」



香川学習センター
姫路城



神奈川学習センター
韭崎大村美術館



千葉学習センター
笠間焼制作体験



大分学習センター
臼杵市（臼杵散策と味噌作り体験の旅）



鳥取学習センター
兵庫県立美術館 藤田嗣治生誕130年記念展



埼玉学習センター
箱根彫刻の森美術館



秋田学習センター
秋田県立大学木材高度加工研究所ほか

地域と密着する学習センター

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。放送大学学生にかぎらず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、また共に考える機会を提供し

ている。講師は、放送大学関係者に加えて、それぞれの地域や分野で活躍する多彩な方々をお招きしている。以下は2016年度開催されたもののほんの一例である。

公開講演会・公開講座

学習センター	題目	講師	
北海道学習センター	心理学の学び方～臨床心理士をめざすには～	放送大学教授	小野 けい子
青森学習センター	弘前城築城と城下町の成立・変容	弘前大学名誉教授	長谷川 成一
岩手学習センター	考古学から見た奥州平泉文化～奥州藤原氏が私たちに遺したもの～	岩手大学平泉文化研究センター客員教授	伊藤 博幸
宮城学習センター	魚の「超」能力～水中での環境適応と進化～	東北大学大学院農学研究科教授	落合 芳博
秋田学習センター	スーパーカミオカンデと発破技術	日本工機株式会社	村田 健司
山形学習センター	アウトドア学習「放射線測定」	山形学習センター所長	櫻井 敬久
福島学習センター	世界の災害復興事例に学ぶ	放送大学客員教授	吉高神 明
茨城学習センター	個性豊かなブラックホールたち	茨城学習センター所長	横沢 正芳
栃木学習センター	足利学校と日本の教育	放送大学名誉教授	五味 文彦
群馬学習センター	夜空は何故暗い? ～オールバスのパラドックスのパラドックス～	放送大学教授	吉岡 一男
埼玉学習センター	海は広いな大きな一海洋国家日本の海の管理～	放送大学副学長	來生 新
千葉学習センター	習志野騎兵旅団物語Ⅱ 秋山好古から栗林・西へ～明治から昭和の騎兵旅団～	習志野市文化財審議会会長	山岸 良二
東京文京学習センター	新国立競技場の設計を通じて～1964-2020 二つのオリンピックスタジアム	建築家	隈 研吾
東京足立学習センター	夢をあきらめない	アテネバリンピックマラソン金メダリスト	高橋 勇市
東京多摩学習センター	西武の時代～鉄道と団地から見た戦後思想史	放送大学教授	原 武史
東京渋谷学習センター	サイエンスカフェ「科学・技術記事を読み解く」	放送大学客員教授	秋鹿 研一
神奈川学習センター	物としての書物を読む	放送大学客員教授(横浜国立大学名誉教授)	山田 俊治
新潟学習センター	佐渡の自然災害	新潟学習センター所長	大川 秀雄
富山学習センター	パリの都市景観	富山大学 芸術文化部 教授	松政 貞治
石川学習センター	金沢ゆかりの文学～徒然草と吉田健一～	放送大学教授	島内 裕子
福井学習センター	アジアの恐竜時代～進化と移動～	福井学習センター客員教授	東 洋一
山梨学習センター	幻のワインと大豆ヨーグルト	山梨大学教授	柳田 藤寿
長野学習センター	スキーの科学 登山の科学	放送大学長	岡部 洋一
岐阜学習センター	言葉を雑染(ざつがく)するvol.Ⅱ	岐阜大学教育学部教授	廣田 則夫
静岡学習センター	富士山が生み出す巨大な水源と微生物	静岡大学教授	加藤 憲二
愛知学習センター	単身化する社会の「縁」のゆくえ～人口減少社会の姿から～	放送大学副学長	宮本 みち子
三重学習センター	人権思想を総括する	三重学習センター所長	上野 達彦
滋賀学習センター	古典文学と近江	滋賀学習センター所長	吉川 栄治
京都学習センター	熱帯雨林問題を考える	京都学習センター客員教授(京都大学名誉教授)	市川 光雄
大阪学習センター	「イスラム国」の野望	放送大学教授	高橋 和夫
兵庫学習センター	人工知能とロボットのための、新しい情報倫理	放送大学教授	辰己 丈夫
奈良学習センター	歴史と人間を考える～津田梅子の人生を通して～	放送大学教授	杉森 哲也
和歌山学習センター	ひきこもり支援プログラム	紀の川病院副院長・精神科医	宮西 照夫 他
鳥取学習センター	ヨーロッパの農業革命	鳥取学習センター所長	小林 一
島根学習センター	脳型コンピュータ	放送大学長	岡部 洋一
岡山学習センター	朝鮮通信使と牛窓～瀬戸内市は世界に向かって開かれていた～	放送大学教授・附属図書館長	吉田 光男
広島学習センター	人間生活を研究する～保育園児から大学生を対象とした研究の紹介を通して～ 幼稚園・保育園児の行動研究	広島学習センター客員教授	今川 真治
山口学習センター	繊維と色素を化学する	山口学習センター所長	阿部 憲孝
徳島学習センター	渋野丸山古墳の発掘調査について	徳島市教育委員会	西本 沙織
香川学習センター	気象と危機管理～かがわの気象災害と災害から身を守るためにすべきこと	日本気象予報士会会員	益 伸雄 角谷 一乗
愛媛学習センター	機械は「考える」ことができるか～人工知能を理解する～	愛媛学習センター所長	村上 研二
高知学習センター	アドラー心理学入門講座	早稲田大学人間科学学術院教授	向後 千春
福岡学習センター	看護職のキャリアアップについて	九州大学大学院医学研究院 保健学部門看護学分野教授	藤田 君支

学習センター	題目	講師	
佐賀学習センター	“情報社会”とは、どんな社会？	佐賀大学経済学部准教授	羽石 寛志
長崎学習センター	オリンピックの歴史—オリンピアから東京へ—	西九州大学健康福祉学部教授	管原 正志
熊本学習センター	人間性の探究—人間とは何かという問いをめぐって—	熊本学習センター所長	岡部 勉
大分学習センター	地方創生時代を切り拓く大分からの挑戦	大分県知事	広瀬 勝貞
宮崎学習センター	宮崎県産品のちからを考える	宮崎大学教授	山崎 正夫
鹿児島学習センター	地域糖質資源の特産化	鹿児島学習センター所長	菅沼 俊彦
沖縄学習センター	富永所長の心理学講座&心理学を活かした職業と学びの体験談in石垣島	沖縄学習センター所長 臨床心理士	富永 大介 小川 重美子

ベートーヴェン「第九」特別演奏会 —知る、喜びの彼方に—

南関東ブロック7学習センターが結集して取り組んだ「ベートーヴェン第九交響曲」の合唱の響きが、2017年3月26日、14時、東京藝術大学奏楽堂に鳴り響いた。

終演後、同大学キャッスルにて行った打ち上げでは、皆がこの2年間の充実感と達成感に満ち溢れ、所長も学生も音楽家も教員もすべてが一つに打ち解けていた。

ベートーヴェンが合唱で伝えようとした～O Freunde!! alle Menschen werden Brüder～、その世界があった。放送大学特別講演としての「第九」は一回だけのイベントではなく、この演奏会を契機として、

新しいより豊かな放送大学の学びの在り方を示そうとしたものでもあった。実際、この日から南関東の各センターでは、各センターそれぞれの第九合唱演奏会が展開し始めている。しかもそれらの活動は学生主体であるということに学びの大きな意義が見いだせる。今後もさらにその歌声の輪が全国すべてのブロックにも広がり、放送大学全体が一丸となって、広く深く豊かな放送大学の学習の姿を、社会に向けて発信し続けるような契機となることを願っている。

以下に当日の演奏会プログラムを写真と共に記載する。

プログラム	
水先案内	「歓喜」への道、ベートーヴェンからの「学び」 茂木 一衛
L.v.ベートーヴェン 交響曲第9番ニ短調作品125<合唱付>	指揮 山本 純ノ介 ソプラノ 奥村 さゆり テノール 小林 大作 合唱 放送大学「第九」合唱団 コンサートミストレス 長尾 春花 アルト 小川 明子 バリトン 河野 克典 オーケストラ 放送大学「第九」特別オーケストラ
放送大学 学歌	作詩 那珂 太郎 管弦楽編曲 山本 純ノ介 合唱 放送大学「第九」合唱団 作曲 柴田 南雄 指揮 岡部 洋一 オーケストラ 放送大学「第九」特別オーケストラ



東京藝術大学奏楽堂での本番



準備に取り組む学生



参加者の全体写真



東京文京学習センターでの練習風景

学びの体験記「放送大学に学んで」刊行

本書は、学長裁量経費を活用し、中国四国ブロックの学生さんの80編を超える学びの体験記を中心にまとめたもので、下記の3部構成から成っている。

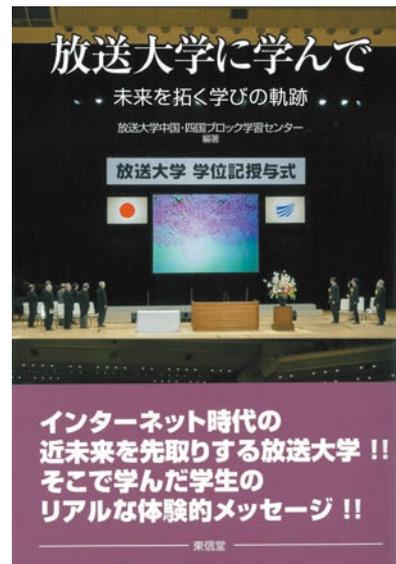
第I部には、学生さんの学びの体験記をカテゴリーごとに収録している。

第II部には、これまでに報道・記録された学生さんの声を、学位記授与式での謝辞、センター機関紙等に掲載された記事、新聞記事等から選びまとめている。

第III部には、学習センター所長からのメッセージを収録している。

「生きることは学ぶこと」という言葉は、まさに生涯教育時代にふさわしいメッセージである。

是非、本学の教職員のみならず、広く社会の皆さまにご一読頂きたいと願っている。



「放送大学に学んで」
(中国・四国ブロック学習センター 編集)

附属図書館所蔵コレクション展の開催

放送大学では、毎年、附属図書館が所蔵するコレクションの一部を各地で展示し、貴重な資料に触れる機会とするとともに、放送大学への理解を深めるきっかけとしていただいている。

2016年度は3つの学習センターと共催で、「ちりめん本と古写真」をテーマに附属図書館コレクション展を開催した。大分では、大分県立図書館を会場とした。期間中、大分県知事の講演会もあり、多くの来場者が100年前の大分の風景写真等を楽しんだ。埼玉では、埼玉SCの8階のフロアを活用して展示を行った。面接授業の合間の休み時間など活用し、教員や学生が熱心に観覧していた。秋田では、秋田県立図書館を会場とした。秋田県立図書館所蔵のちりめん本と本学のちりめん本を比較展示するなど、秋田県立図書館とのコラボレーションによる展示もできた。

各会場の特色を生かし、それぞれ見所を変えて展示を

行えた。どの会場も概ね、盛況となり、合計で1600人を超える来場者数となった>(*秋田会場は、カウントが出来なかったため合計数に入れず)。



大分学習センター



埼玉学習センター



秋田学習センター

学習センター	期間	会場
大分学習センター	2016年 6月16日(木)~6月19日(日)	大分県立図書館 (大分県大分市)
埼玉学習センター	2017年 1月7日(土)~1月8日(日)	埼玉学習センター (埼玉県さいたま市)
秋田学習センター	2017年 2月2日(木)~2月10日(金)	秋田県立図書館 (秋田県秋田市)

データで見る 放送大学の概要

■ 役職員数 [単位:人]

役員	7	※1
学長	1	
副学長	3	※2
教員	84	
事務職員	246	
合計	338	※3

(2017年3月31日現在)

※1 学長(理事)、副学長(理事)を含む
 ※2 副学長(理事)を含む
 ※3 重複があるため合計は一致しない

■ 在学生数 [単位:人]

教養学部

全科履修生	57,671
選科履修生	17,846
科目履修生	7,158
特別聴講学生(学部)	3,410
合計	86,085

(2016年度第2学期)

大学院

修士全科生	1,098
修士選科生	3,548
修士科目生	636
特別聴講学生(修士)	1
博士全科生	37
合計	5,320

(2016年度第2学期)

集中科目履修生

学校図書館司書教諭講習	853
看護師資格取得に資する科目	458
合計	1,311

(2016年度)

(注)特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

■ 入学者数 [単位:人]

教養学部

	1学期	2学期	合計
全科履修生	7,402	4,135	11,537
選科履修生	11,628	6,145	17,773
科目履修生	6,306	7,158	13,464
特別聴講学生(学部)	1,248	3,410	4,658
合計	26,584	20,848	47,432

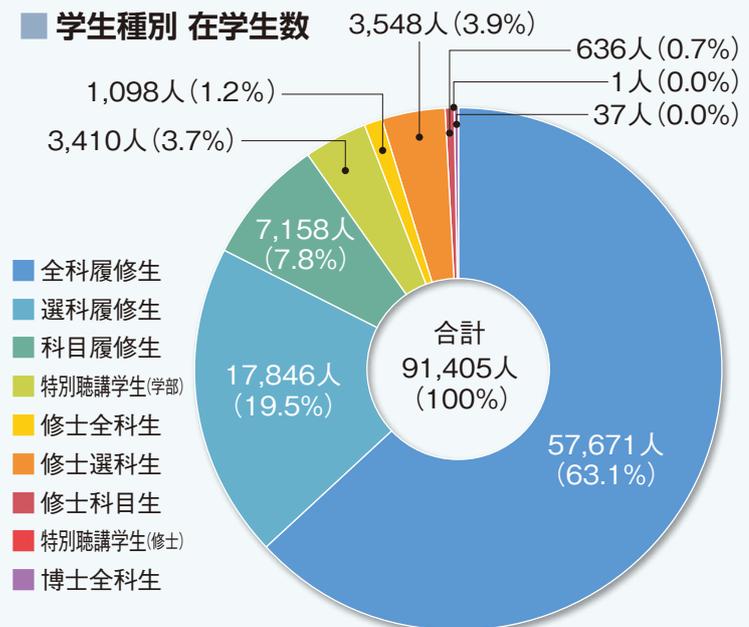
(2016年度)

大学院

	1学期	2学期	合計
修士全科生	386	—	386
修士選科生	2,448	1,063	3,511
修士科目生	515	636	1,151
特別聴講学生(修士)	1	1	2
博士全科生	13	—	13
合計	3,363	1,700	5,063

(2016年度)

■ 学生種別 在学生数



■ 学部卒業者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
2,181	3,272	5,453	94,509

(2016年度)

■ 大学院修了者数 [単位:人]

1学期	2学期	合計	累計
2	322	324	5,213

(2016年度)

■ 単位互換協定締結校数 [単位:校]

学校の種別	大学院	大学	短期大学	高等専門学校	合計
校数	7	280	86	15	388

(2017年3月31日現在)



〒261-8586 千葉県美浜区若葉 2-11
TEL:043-276-5111(総合受付)
<http://www.ouj.ac.jp/>